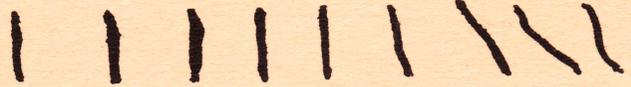


15

周年記念誌



ボーイ・スカウト 東京才4団



ガール・スカウト 東京才4団

1962



ボーイスカウト 東京才四団々歌
 (創立十周年を迎える才四団に捧げる)

志水功 作詞
 作曲

The musical score is written for Tenor (Ten.) and Bass (Bas.) voices, and Piano (P.). It consists of four systems of staves. The key signature is one sharp (F#) and the time signature is common time (C). The score includes various musical notations such as notes, rests, and dynamic markings like 'v' (forte) and 'f' (fortissimo). Chord symbols are placed above the piano staves, including G, G7, C, D7, A7, D7, Em, B7, and G. A '繰返し' (repeat) sign is present in the third system.

一、神と国とに誠を尽し
 おきてを守り人を助ける
 ぼくにちスカウトの
 小は愛のわさが
 この世に平和をもたらすのだ
 (くりかえし)
 正史輝く聖南坂に
 そひえ立つ鐘楼
 仰いで進もう

二、体をきたえ心をみがき
 徳を養いつねにぞほえる
 ぼくにちスカウトの
 日ころ励むわさが
 この世に光をかかげるのだ
 (註)

一九五七年、創立十周年を迎える才四団に捧げる」として作られた歌であったがその後国会議において「東京四団々歌」に制定された。



少年隊ハイキング
— 大山 —
(一九六一年)



上級スカウトキャンプ
— 八ッ岳 —
(一九六一年)



年長隊キャンプ
— 布良 —
(一九六一年)

ガールスカウトキャンプ
— 羽村 —
(一九六一年)



年少隊舎営 — 秩父湖 —
(一九六一年)



ブラウニーキャンプ — 山中湖 —
(一九六一年)

発隊当時
(一九四七年)



合同バスピクニック — 狭山湖 —
(1961年)



発団当時
(一九四七年)

自分を愛するように

あなたの隣り人を愛せよ

—— マタイ伝 二十二章三十九節 ——

ボーイ・スカウト 東京第四団
ガール・スカウト 東京第四団
日本基督教団 壺南坂教会

刊頭の辞
目次
小崎道雄 4

三つの誓十二の痕
あわせて十五のお祝いを
飯 清 22
スカウト運動の起り
22

団委員会

十五周年に思う
十五周年のお祝いによせて
スカウトは永遠である
十五周年をお祝いして
おめでとう四田
ブラウニーに奉仕して
いづれも私はスカウト

田中正男 6
今井栄 16
田中新二 14
安保美香子 7
志水興 28
佐脇漱生 28
小崎忠雄 28

ボーイスカウト

ジープに乗れなかつたけれど
熊班の案内
思い出深いスカウト生活四年半

飯田貞雄 42
加藤正夫 42
吉田進 42

カールスカウト

いつかのキャンパス
スカウトへの道
第四回創立十五周年を記念して

塚田洋子 36
針管知恵子 36
此企文子 36

証代の指導者

創立時代を顧み
第二代隊長として
反省
思い出すまゝに
意義ある十五周年
我がふる里

今井襄 2
大屋政夫 10
志水尚子 10
西郷尚子 10
根本善久子 12
萬井潤子 12

海外派遣

スイス
カナダ
フィリピン
アメリカ
沖繩

萬井潤子
今田富江
安積発也
日下部英一
吉田進

カブ

嵐の本ツカチ
土曜日のこと
思い出
三
大
15

正
8
15

第四回創立十五年に際して

壱南坂教会 名誉牧師
ボーイスカウト日本連盟相談役

小 崎 道 雄

十年一昔という事があるが、全くその通りで我がスカウトも創立十五年となる。凡そこの事が変わった。創立の際のウイリアム君は今は北米の首都ワシントンの近くに住んでいるが先日書簡にてスカウトの近況を問合せて来た。

今田、飯田、小崎などがそれぞれ結婚して大先輩となり、後に続くものも皆な大きくなつたものである。

日本のスカウトも戦前の古い軍隊色のものが民主的なスカウト創立となり元来の姿に帰つたが何しろスカウトは基督教の教会で成長発達したものであるから、日本のスカウトはまだまだ真実のものとは申しかねるところが多い。

私共教会スカウトの責任は重大である。東京の教会で時々スカウト運動を始めるものがあるが長続きせず中絶するのは残念である。それは指導者を得ることが困難であるからである。此の壱南坂は恵まれて多くのよい年長者が与えられて年少者の世話が出来るとは感激である。

最近大阪の教会の中にスカウトが組織され段々その数も増し力強くなりつゝあるのは愉快なことである。教会のことは南東より南西の方が実

動を始めのものがあるが長続きせず中絶するのは残念である。それは指導者を得ることが困難であるからである。此の莫壺南坂は恵まれて多くのよい年長者が与えられて年少者の世話が出来るとは感激である。

最近大阪の教会の中にスカウトが組織され段々その数も増し力強くなりつゝあるのは愉快なことがある。教会のことは関東より関西の方が實際的なことには熱心で実践力がある。教会スカウトも或は大阪が指導者となつて全国の先頭に立つに致るかも知れない。

何よりもうれしいことは宗教章の制定されたことで多年研究の結果欧米の例に習い宗教章が出来たのである。宗教章とはキリスト教なら教会学校によく出席するとか、聖書をよく読み又記憶して居るとか、教会のためよき奉仕をするとかで宗教章を胸に飾ることか出来るのである。

私はスカウトの顧問だが此の頃余り實際のことは分らない。けれどもスカウトの誓はりつはなものだと思ふ。あの通り実生活に生かされたり地上天国である。スカウトの隊員がこのことをよく認識して実行しなければならぬ。空念仏になつてしまふ。それを生かすのにお互い教会スカウトの使命である。

どうか皆様 伝統も歴史もよい壺南坂のスカウトとしてしっかり責任を果して下さい。国際ジャンボリーにも度々代表を送る皆様のスカウトが健全な成長をすることを私は常に祈っています。

十五周年を迎えて

七級スカウト

石川敬子

「Honor the past - Serve the future!」

これはアメリカのカールスカウト五十周年記念に際しての、簡潔かつ美麗なる一句である。「過去をたぐえ、誇り―未来につくす」私達もこの十五周年という輝かしい記念日を迎えるにあたって、この一句を惜りようではないか。十五年前、さう、それはちよつど私が満三才を迎えたばかりの頃だ。この地上に生れ落ちて、やっと人間らしい形となり、大地に自分の足をつけて、おぼつかぬながら歩き始めた頃、この「カールスカウト第四団」が結成されたわけだ。十一年一昔というが、まったくその頃の西の様子は、とても私達のような温室育ちには想像もできない。終戦後、まもないその頃の日本では、混乱と復興のさびしい波が渦を巻いていたにちがいない。そして、その冷たい水しぶきをかぶりながら、一歩一歩、今日までたゆまず歩み続け、こんなに大きな団となったこと、それは優れたリーダーと、良きスカウト一人一人の努力による美しい結晶である。私達は心から過去をたぐえ、誇りに思う。

しかし、またそれと同時に、私達は過去につながる未来を背負っていることを忘れてはならない。人間は、ひとたび自己の地位を確立すると、今までの教しい勵志もひとえやら、新たな意欲をも失な

って、ただ情性に身をまかせてしまう。しかし、私達はそうあつてはならない。一回一回の集会には、いつも新鮮な気持ちで未来の建設の巨役に、ミノをふるわなければならないのである。こんな事を言うとき大まう御マシに聞えるし、誰かに「言うはやすく、行うは難し」と言われそうだが、私達はスカウトである以上、この難かしいことを実践していなくてはならない。いや、ならないと思ふ。

「Honor the past - Serve the future!」

さあ、私達もこの言葉をよくかみしめて一歩一歩、前進しよう！
輝かしい過去と未来のために……

十五周年に思う

ボーイスカウト団委員長

田中正男

私達の四団が生れて今年で十五年、人間の年令で云えばもうそろそろ高校入学といった年で我々の人生において将来を決する時期として大切な時である。又、身体も大人なみに成長してこれからますますのびてゆく年であろう。私達の団も今年の四月から青年隊が発足すると年少隊、少年隊、年長隊、青年隊の四つが揃って一人前の団になる。形だけはこれを整ったけれど、これならが發展の時期である事を忘れてはいけないであろう。

私達の四団が他の日連加盟の団と異なる点は教会が育成しているスカウトであるという点で宗教教育の一貫として行っている点である。

即ち、神と団とに誠を尽すと云うスカウトの誓いあらわれる存心私達の団にあつては日本で古くから伝えられる八百八十の神でなく、キリスト教におけるただ一つの神である。私達は十五周年を迎える

十五周年をむかへ、

である。私達は心から過去をたゞえ、誇りに思ふ。

しかし、またそれと同時に、私達は過去につながらる未来を背負っていることを忘れてはならない。人間は、ひとたび自己の地位を確立すると、今までの敷しい闘志もどこえやら、新たな意欲をし失ふ

即ち、神と国とに誠を尽すと云うスカウトの誓にあらわれる神は私達の国にあっては日本で古くから伝えられる八百八十の神でなく、キリスト教におけるに「一つの神」である。私達は十五周年を巡えるにあたって先づ私達の団の十五年の歩みをこの神に感謝し、更に今後益々発展させるべく努力する事を神に誓ひなければならぬ。

団を発展させるという事は云うべくして決してたやすい事ではなくスカウト一人一人が決心して行わなければ出来ぬ事である。沢山のスカウトが居るのだから自分一人位なまけても誰かやってくれると云う安易な気持ちを持つスカウトが一人でも居るなら、その団は発展しないであろう。

今後の発展の具体策としてはいろいろあるが、先づ取りあげねばならぬ事はリーターの養成という問題である。私達の団はいりーターに恵まれているためにこの問題があまりさかんにされ勝ちであるが、このことをおこなった今後の団の発展は有りえないであろう。

十五年の歩みが先輩達の努力によって築き上げられた事を賞讃し感謝すると共に、この先輩達に続いて益々真心を磨き、良いスカウトとなる様一人一人が心掛る事が今後の発展をもたらすものである事を思い尚一層の奮起をうながす次第である。

田中正男——ボーイスカウト団 安保美喜子——上級スカウト団
委員長(九五七)。愛南坂教会 委員長(一九六〇、六三)。瀧子様
の長老でもありスカウティングの 二人はボーイスカウトに(四年前
よき理解者。瀧子様二人は上級 退団)ガールスカウトでは副リ
スカウト、ガールスカウトの団 ーターとして活躍されていたが
買。早稲田大学教授。 今年三月惜しくも退団された。

団になる。形だけはこれを整ったけれどこれならが発展の時期である事を忘れてはいけないであろう。

私達の四団が他の日連加盟の団と異なる点は教会が育成しているスカウトであるという点で宗教教育の一貫して行っている点である。

十五周年をお祝いして

上級スカウト団委員長

安 保 美 喜 子

中四団ボーイスカウト、ガールスカウトが、誕生して十五周年を迎えるに伺い、戦後、衣食住の不自由な時代に、いろはやく青少年の育成に心を配り、当団の発展に力を画された先輩の方々の御苦労を思うと、本当に頭のさがる思いが致します。立派に成長された当時のスカウトの方々の御姿に接してありますと、その十五年前の成果が、立派に実ったことと心からお喜び致します。

先輩の指導に、また団の運営等に苦心されているリーターの方々を見習い、現任のスカウト達も、スカウト活動を通じて、立派な社会性と指導力を身につけ、良き伝統を伝えていられることと信じております。スカウト活動の中から生まれた友情を求長く育て、いつまでも仲良く四団を盛り立てていきたいと思っております。四団が、ここまで立派な成果をあげ得ましたことは、発足当時のスカウトが、リーターとして、良く先輩を指導し、数々の困難を乗り越えてこられたことと、心から感謝しております。

子供達が大きくなって来ますと、とにひかく、親は、子供の自主性を尊重するあまりか、あまりスカウト活動に關心を持たなくなつてきますが、まだまだ若い子供達ですので、母親、父親が、側面から忠告、援助の手をさしのかけてやらなければと感ずることも多いので

すから、子供達が、学校では得られない数々の有益な経験をかきね、人格形成に、大いに役立つスカウト活動に、御父兄の方々の一層の御理解と、御援助をお願いし、御四囲が、ますます発展しますことを祈り、筆をおひさせて頂きます。



私はブラウニー

ブラウニー
中谷明子

私はブラウニーです。

「やくそくのとおり、わたしは、おうちのおまつだいをしているからしら」。わたしは、ときどきそう思います。わたしは、おうちのおまつだいをしないとおかあさんは、「ブラウニーのやくそくとおりになつていないじゃない」といいます。そんなとき、わたしはブラウニーがいやになります。でも、やはり、ブラウニーは楽しいです。私は、これからも、リッパなブラウニーになりたいと思います。

土曜日のこと

田組 くらま

森川千秋

僕も、カフスカウトに入って、二年目の四月になった。土曜日の学校が終って、帰ってからの一時間は急がしい。

「ただいま、今何時」とお母さんに聞く。

「おかえり、十二時四十五分よ。早くごはんを食べて、したくをしなさいよ」といわれる。時計と、テレビをにらめっこしながら、ごはんを食べる。十二時五十五分の海外ニュースを見て、三木谷君をむかえに行く。日暮里駅から宿寮にのる。僕のカフスカウトのにかはこれから始まる。まんじん電車でゆられて、小さな顔だけを出してフウフウ言う時もある。東京駅でカバンを落してお母さんに取りにいってもらったこともあった。帰りにのったバスが、新橋へ行かず東京駅でびっくりしてあわてたこともある。

この様な、いろんな思い出があった。寒い冬、暑い夏、この二年間は、いやなときもあったが、たのしいときもあった。キャンプ、ピクニック、クリスマスとたのしいおもいでた。

これからも僕はいつしうけんめいに、ホーイスカウトのかもくをして、良いスカウトになりたいと思う。

になつていないじゃない」といいます。そんなとき、わたしは「ウニーがいやになります。でも、やはり、ブラウニーは楽しいです。私は、これからも、リッはな、ブラウニーになりたいと想います。」

創立時代を顧みて

今井 襄 二

東京や四隊が、豊南坂に生れてするに十五年。実に早いものである。その當時を思い出すとなつふらしい。隊員は、今田、飯田、荒垣志水、小崎、金海、遠山、菊田、青木、石田、斎藤、長沢の十二名から成り、苦勞もろく、にんかしくもあつた。

ユニホームといへば、ネックタイフだけであつた。しかも、それでも皆胸を張り、常にフライドを持っていた。實際考えて見れば、その當時持っているものといへば、フライドしななかつたと云える。キヤンプに行くにしても、二、三カ月前から、お米を少しづつためて行く有様だつた。しかも、二度目の大キヤンプでは、薄酒を二泊し、その昼夜行で京都へ行き、一日中京観物し、再び夜行で玄島へ、更に宮島で一週間の長期キヤンプをやつたのけた。今考えると何でもない事の様だが、あの頃は皆苦しかつたに違いない。汽車は満員のすし詰め、隊員は椅子の下にもぐり込んで旅行した苦勞は、今でも忘れられない。私が指導に當つたのは、ごく短期間であつたが人に云えない苦勞もあつた。それは、ボーイスカウト本部の隊員であつた私が、ロクラム組織等の作成に當つて、四隊を色々試験的に運営した事である。しかし、それはマイナスではなかつた。むしろ非常に良い結果を得る事ができたように思う。

ピクニック、クリスマスとたのしいおもいで。これからも僕はいっしょうけんめいに、ボーイスカウトのかまくらをして、良いスカウトになりたいと想う。

さて、私の隊員指導には、大きな信念があつた。日本海軍生活中将校下士官、兵員によい指導者が時に少なかつた事を知つた私は、少年時代或は、幼年から指導者になる爲の訓練が必要であり、その爲にはボーイスカウト運動が一番良い事であると思つたからだ。

ここで私は大切な事を告げたいと思ふ。成程、ボーイスカウト運動は、非常に良いものである。しかし、幾らよいものでも、そのやり方、「使い方」を誤つては、元も子もなく、むしろ、マイナスの面が大きく現われがちである。ボーイスカウト運動は、一つの道具であり、方法であり、大きな目的達成の爲の踏み台であつて、決してボーイスカウト運動そのものが、目的であつてはならない。皆はいくら結果やハイキング、キヤンプ等、上手になつても、それだけではまだ、まだボーイスカウトの目的は達成されていないものである。「どうすればよいか？」これは、みんなに考えてもらひ、一生懸命、命良い大人に成る様、努力してほしいと思ふ。最後にもう一つ、他人のいやがる争を進んで、笑顔でやる様に、先輩として忠告したい。

今井襄ニ——マーチン・B・ウィリアムス氏と共にボーイスカウトが四隊を創立。初代隊長一九四七（四九）として現在の指導者達がスカウトの頭独得な指導方法で大いに活躍、また日本連盟の指導主事として戦後のスカウト運動に貢献。ハワイ・ホノルルが三六隊にて少年時代自らスカウトリングの経験もあり、当時のネックタイフのカラーを現在当団でも使用している。御子様は昨年ボーイスカウトに入団。現在ワイド・ワールド・フォトス東京支社長。

オ二代隊長として

大 屋 政 夫

「祭団十五周年お目出とう」。伝統ある聖南坂教会を母体として発足して早くも十五周年記念日を迎えるオ四団の皆様は心よりお喜びを申し上げます。表記の原稿依頼のお手紙を戴き大変嬉しく又なつゝしく思い聖を取っております。

私には色々な思い出のあるオ四団である。様々な手柄が次から次と断片的に現われては消え、思う様に筆が進みません。まじまつたことは何も書けません。現に立派に成長したオ四団の姿を見るに付け、痛くに付け、私も一度は隊長を勤めさせて戴いたオ四団のことに非常にはつかしく、又誇りに思っております。顧りみるに十五年と一口に申しますが、その間、様々なことがあつたらうと思ひます。育成会及び団委員の皆様が目に見えない努力が、伝統あるオ四団を造り上げたのだと思ひます。

初代隊長である優秀な今井巖二氏が基盤を造られたその後任として、微力ながら光輝あるオ四団の隊長を奉仕させて戴き、忘れることのできない思い出が、感激が、私を励し、勇気づけてくれます。

アルバムをめくると懐かしい顔、顔、皆そのまつの姿で笑みかけてきますが、現在は皆指導者として、或は良き社会人として、それぞれに分野で活躍をされておられることでしょう。

人間は常に何かの試練に置かれますが、これは神が授けたこと、誰にも解らないことでしょう。これを乗り切らねばならないのが人間の道であるかと考えます。これを避けようと努力することは卑怯です。自分の方で、良心の判断でこの試練に打ち勝つてこそ、心の平和が得られるのです。スカウト時代に訓練し、修養し、どんな試練にも打ち勝つ自信を体得して下さい。

スカウト精神を身に付け、常に明るく、楽しく、微笑みを持って毎日を過ごすならば、常に平和な生活が出来ます。自分自身の為にも生きようとする人間は、心の小さい人間です。隣人の為にも生きようとする人は、心の大きな人間です。

オ四団は環境に恵まれており、皆様の努力は必ずや、立派に実るでしょう。今後増々発展し、より立派な伝統を築きスカウト精神を大いに發揮し、世の爲になる立派な人間が多数オ四団より育ち行くことを祈りつつ乱筆を止めます。

オ四団 弥栄

思い出すまゝに

西 郷 尚 子

聖南坂教会にボーイスカウトとガールスカウトが発足してから、今年するに十五周年を迎えるに至りましたこと、誠に感慨深いものがござります。

私が四団の皆さんと一緒に遊ばし、昭和二十六年春から

二十九年秋迄のごく短い間のことです。スカウトキャンプが聖南坂教会に誕生して以来、現在迄お力添えを下さり、お子様をB.S.

オ四団の上級スカウトとして活動しながら、皆様のお力を頼って

新しく団を立ち上げる多量な責任を担って下さったおかげで、オ四団は東京支部の中に、いくつもの姉妹団と見事に、へき地を持つようになったので

とのできない思い出か、感激か、私を励し、勇気づけてくれます。

アルバムをめくると懐かしい顔、顔、皆そのまつの姿で笑みかけてきますが、現在は皆指導者として、或は良き社会人として、それぞれ分野で活躍をされておられることでしょう。

私が四田の皆さんと一緒に過ごしたのは、昭和二十六年春から二十九年秋迄のごく短い間のことです。スカウトキングが靈南坂教会に誕生して以来ずっと、現在迄お力添え下さり、お子様をB・SとG・Sでお育てになった志水興先生からお話頂いたのが御縁になりました。当時のリーダー橋本玄子さんに、すべてを教えて頂きながらお手伝いしはじめた時、確か四周年のお祝いをしたことがあったと記憶しますから、何と云っても四田はまだ幼かったです。その上、当時はまだ戦後と呼ばれていた時代でしたから、色々な意味で一種の過渡期でもあったと思います。リーダーとは云え、スカウトから育ったリーダーではありませんが、講習会で習った通りをそのまま、田活動に当ってはめて行くことが多く、手さぐりで過した時期もありました。何と云へ一日も早くスカウトの中からリーダーを育てたいと念願し、後に皆さんのお力添えでその願いは果されました。

そのころ、田の人数は二十人前後でしたが、だんだん多くなり、後には倍になりました。よく皆さん、つたない私を助け、励まして下さったものと改めて感謝しております。当時は夢中で分りませんでしたか、今思うと、苦しみながらも、よい勉強をさせて頂きました。B・S、G・Sが教会のスカウトとして独自の立場を取ることになったのもその頃。又、B・Sには早くからカフがありました。G・Sにブラウニーが誕生して、同じく四田として登録される様になったのは、G・Sの方が順調に行く様になって、スカウトなら育ったオ一等のリーダー達、白井善久子さん（根本夫人）、志水久さんなどが誕生してからです。やがてオ二号、オ三号のスカウトのことならば当然に何もまかせられるリーダー達が続出し、その方達

靈南坂教会にボーイスカウトとガールスカウトが発足してから、今年すでに十五周年を迎えるに至りましたこと、誠に感激深いものがございませう。

四田の上級スカウトとして活動しながら、非常な努力を払って、新しく団を作る計画を実行に移して下さった結果、四田は東京支部の中に、いくつかの姉妹団とも云うべき団を持つようになったのでした。

本来の田活動はB・S、G・Sがそれぞれ別個に行ってはいましたが、兄弟姉妹の關係にあるB・Sとの交流は、年を経るに従って益々健全な形で深められて来たと言感致します。志水さん兄妹、今田さん兄妹、田中さん兄妹などがスカウトとして育たれ、やがてリーダーになられたこと。日本連盟の代表としての海外派遣スカウトが時を同じうして、B・SからもG・Sからも送られたこと。そして昨年秋季にはB・Sの今田さんとG・Sの田中さんが、はじめのスカウトのカップルとして人生の門出に立られました。ここに来まで、やっぱB・SとG・Sは名実共に一家族として歩み始める時が来たのです。多くの若いスカウト達が、先輩のつづいた十五年の歴史を更に光輝あるものとして受け継がれることを信じております。最上の環境を得て、スカウト精神はより一層健全に育まれることと信じております。教会を母体とし、育成会、団委員会の方々の多くの御助力を得て、靈南坂教会スカウトが、いよいよ成長し、発展なさることを心から祈ってやみません。

大屋政夫ーボーイスカウトオ二代目隊長（一九四九〜五〇）
四月に東京オ十隊より副長として来られ六月今井隊長の後をつぐ。
その後東京オ二十一隊隊長を経て現在東京オ一の九周年少隊長として活躍中。

西郷尚子（旧姓国行）ーガールスカウトオ三代目リーダー（一九五三〜五五）
一九五一年夏、アメリカにおける世界青年会議にガールスカウト日本連盟代表として参加された。現在家庭で二児の養いママ。

意義ある十五周年

根 本 喜久子

十五周年と云つてもガールスカウトの場合は、現在の日本連盟が正式発足する前の、とにかく教会学校の女学生有志が、スカウト運動に熱心を持った教会員のもとに、はじめて集りをもった……と云う時から数えての年数なのです。ですから、昭和廿四年に連盟が誕生し、正式にガールスカウト東京や四団として登録をしてくからは、十三年目と云うわけです。私達にとっては、何もないところにガールスカウトの種がまかれた時の方に、誕生の意味を感じるものですから、今迄何気なく十周年だ、十五周年だ、と云つておりましたか、それは四団にしか通用しない年数なのです。だからと云つて、四団を今さら十三才にもどせ、と云うのではありません。やはり十五才になつた、十五才になつた、と大声を祝いたいのです。ただ新しい方達にもこの争を、はっきり知つておいて頂きたいと思ひます。家庭にとほこむる迄十三年間、四団にいたひ、母の老練心で一言。

自分の家というものは、住んでいる間はその住み心地の良さに気がつかないものです。一度そこから離れてみると、途端に、その有難さが分つてくるものです。今の私が、丁度そんな気持ちです。ガールスカウトのリーダーが、まだ初代の小崎朝子先生だった頃から十一年余り、組長になり、副長になり、そして上級のリーダーになるまで、四団と共に歩いてきた私に比べて、今では、四団はまるで自分の家のような気がします。

人になじむことの苦手だった私か、レバレバ母に連れられて、初めて四団を訪れた日、朝子先生や先輩のスカウトの方達は、とても暖かく私を迎えて下さいました。その時、手をとり、足をとり、教えて頂いたフォークダンスの「ピンギ、ディンキ、パレ」は私にとつてたいへんなつかしい曲の一つとなりました。この時の暖かいホスピタリティは十五年たった今に至るまで、四団のガールスカウトにひきつがれてきた精神のようです。そして、これが、四団の持つ魅力の一つでもあると思ひます。四団から少しの間離れてみて、改めて四団の持つ良さが一つ一つ、分つてきた今日この頃です。歌のうまい四団、土人踊りの得意な四団、美人の多い四団、そしていつも何々をやらぬ四団。実に魅力にあふれた四団です。暖かさと、快活

我がふる里

萬 井 潤 子

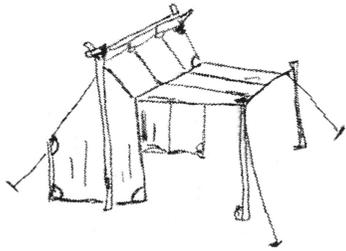
根本善久子(旧姓白井)「ブラウニー」初代リーダー(一九五四年〜五九)。
養田俊まじなく入団。ガールスカウトや四代目リーダー。今年四月
レンヂヤ(仮稱養田)と同時に初代リーダーとなる。日本連盟のプロ
グラム委員、数少ない、若きトリーナーの一員でもある。

さぞ親類を悩ませた四団。いつまでも、そのような四団であってほし
いと願っています。毎日の生活の中に、大なり、小なり、スカウト
生活とのつながりを見出し出しては、もつともつと、欲張って何でも
吸収しておくのだったと思っています。でも何よりも私が感
謝していること、それはリーダーという、人の上に立つチャンスと
与えられ、そのむすかしさを教えられたことです。決して人にほめ
られるようなリーダーではなかったにせよ、在団中に味ったにがい
失敗や経歴は、これならの自分にきつと役立つ時がくると思ってい
ます。

四団について何か批判でもといわれて書いた文がこんなものにな
ってしまいました。やはり、自分の家を批判することはむすかし
ことなのです。

四団の十五周年を心から祝し、これからの大いなる発展をお祈り
致します。

萬井潤子 — 上級スカウト
中二代目リーダー(一九五九
〜六〇)。養田俊まじなく入
団し、一九五五年夏、スイス
アフシャレーにおけるジュ
リエットローヒツションに
参加。上級リーダーを務め
る傍ら、ブラウニー中二団
を結成、昨六一年両方共返
団する。現在、西町スクー
ル幼稚園教諭。



の一つでもあると思います。四団から少しの間離れてみて、改めて
四団の持つ良さが一つ一つ、分つてきた今日この頃です。歌のうま
い四団、土人踊りの得意な四団、美人の多い四団、そしていつも何
かをやらなす四団。実に魅力にあふれた四団です。暖かさと、快活

スカウトへの道

ガールスカウト

針 啓 知 恵 子

私が、ガールスカウトに入る前は、スカウトというものがはっき
りわからなかったのです。弟や妹が入っていてもちつともうらやまし
くもなかった。しかし、母曰、私も入れようと必死になっていたら、
幸い入学試験のため、のびのびになっていたのを心の中で喜んでい
た。ブラウニーのお誕生日会に、いやおうなしに連れていかれた時
楽しそうだとお思ったが、入りたいたは思わなかつた。ところが、
母は持ちきれなくて、とくに申し込んであったらしく、入学試験
が終つてはつとれている時に、突然、ガールスカウトからの通知が
きてぎよつとした。気は重かつたが、いそいそとしてる母の後か
ら、レズレズとついていった。すると、新しい人が五、六人来てい
た。背の高いきつ子先生の姿が印象的だった。はすかしさと、好奇
心の入りまじつた複雑な気持ち、おどおどしている新人の人たちを
古いスカウトたちは、すつと前から知っていた友を迎えるように、
そして緊張している私たちの気持ちをよきほぐしてくるようによし
の輪の中に迎えてくれた。今まで、スカウトというものを知りもし
ないでただ、ただ、何となくいやだと思つていた気持ちを恥かしく思
つた。

その時に、美しい声で、きつ子先生がリードなさった。

「新しい友を作ろう、古い友も忘れず、
新しい友は白銀、古い友は黄金ぞ」

の歌をうたった時は、何かジーンと来るような気がした。最後に
ミーティングの終わる時にした友情の輪も、初めての経験で忘れられ
ない。帰りは、往きにあの坂を登った時とは、全然反対の明かるい
整い気持ちで、坂をおりた。次のミーティングからは、本当に楽しく、
他の会と重なっても、集会の方に出るくらいだった。そして、入団
式、ピクニック、お誕生日会、キヤンプ等、数々の経験を重ねて二
年間がたった。今では、私の生活からスカウト生活を、きりはなす
ことはできないような気がする。十五周年を迎えるにあたって、私
は、感赦も新たに、ますます、よきスカウトとして努力をしていこ
うと思つた。

スカウトは永遠である

ボーイスカウト団委員

田 中 新 二

三 指
十五周年おめでとう。

我が「ボーイスカウト東京や田団」は、この十五周年間、最も成
長期にある多くの少年隊に楽しい思い出と共にたくさんの方の教訓を
与え、スカウトとして、また、社会人として、立派な人格に育ててく
れました。そして現在も、発展の一途を進み、経験豊かな指導者の

下に幸せなスカウティングを説けています。

これは理解ある教会及育成会、そしてこの十五周年、田団と共に
育ら田団と共に歩み、成人した多くの熱心な指導者の努力のおかげ
……と深く敬意を表します。

終戦後の社会も教育制度も不安定な時代を、ともしれば進む道を
見失いやすい反抗期の私が、スカウティングを通して無事に過ごせ
たこと、そしてスカウティングから離れ、実社会で仕事をしている現
在、何事をしていても常に無意識のうちにスカウトである……と
云う気持ちを持ち、全てがスカウティングの精神に通じていること
に最近気が付きました。この気持ちを何とか表わせる言葉はないか？
と考へた時、一度スカウトであった者は永久にスカウトである
……と云う教訓を思い出しました。これを十三年前現役時代に聞
かされた時は、さほど関心を持たなかったけれど、最近この言葉の
意味が本当に理解出来る……と云うより、私の気持ちを端的に表
現してくれる、教訓の一つであると気がつきました。

十三年前、教えられた時は、単純に、一度スカウトであった者は
やめてミーティングに来なくなっても、スカウトであったことを忘
れるな、まだいつでもスカウティングに参加出来る……と云う
程度に理解していました。然しこの教訓の本当の意味は……

田中新二「ボーイスカウト団委員(一九六一)」。初め東京六六隊に
入隊し、一九四九年当田団に転入。同一年東京連盟初の一般スカ
ウト審査に合格。昨六一年荒垣、遠山のO・B代表三名と団委員と
なり活躍、今回はバスピクニックを担当。妹富江さんは今年隊長
々長夫人。名実共にスカウト兄弟。東京放送テレビ映像課勤務。

新しい日本の少年として……
十月に副組長になった時とてもうれしかった。心配やらだった。

我が「ボーイスカウト東京や四国」は、この十五周年間、最も成長期にある多くの少年隊に楽しい思い出と共にたくさんの教訓を与え、スカウトとして、また、社会人として、立派な人格に育ててくれました。そして現在も、発展の一端を進み、経験豊かな指導者の

「一度スカウトとしてらなれを促してスカウティングに参加し、肩仕キヤンプ、進級、等スカウト生活をしたりはやめて実際のスカウティングから離れ、例えスカウトであったことを忘れてしまっても、その者の人格形成の中に、スカウトとしての生活態度が深く刻み込まれ、自分では気が付かないが、精神生活の支柱となって、常にスカウティングをやっているのだ。」スカウティングは、「ミーティング」の場所で行われるものではない。「一生の生活がスカウティング」そのものなのだ。」と教えているのだと思いました。

この他、現在の学校教育では、おおよそ受けることの出来ない、しかも人格形成の上からは一番必要とする年代の教訓を豊富に持つ、非常に有意義なこのボーイスカウト活動に、私が参加出来たことに感謝し、十五周年に当りこの活動の必要性を益々、深く認識すると共に、我が四国の発展を祈り、現役スカウト及びリーダーが活躍しやすい条件を作りたいと微力ではありますが努力をおしみます。

思い出

三組 くま

高 玉

大

ぼくは、始め入隊した時、組長がさびさびとして、組の人をまよめたり、隊長に、ほうこくしたりしている人を見て、ぼくも早くあめゆ組長になりたくなるとおもった。隊長のもとでカフスカウトのさだめをちかつかうとき、ぼくは、世界のカフスカウトにまけ

「カフスカウト」は、昨一年荒垣、遠山のO・B代表三名と団委員となり活躍、今回はバスピクニックを担当。妹富江さんは今日年長隊々長夫人。名実共にスカウト兄弟。東京放送テレビ映像課勤務。

ない日本の少年としてはじけたりしないように、がんばりたいとおもいました。

十月に副組長になった時とてもうれしかった。ハイキングの時大場君が休んだので、ぼくが組長のかわりをした。始め隊にほうこくする時ドキドキして言葉がすらすら出さないうつなえてしまった。帰るころにはなれて上手になった。みんなが助けてくれたのでチームワークも良く野外げきでは一等をもらった。とてもうれしかった。

もうすぐ月の輪として、カフの最後の年です四月から入隊してくる仲間の良いお兄さんとして、はすかしくないことをしたいと思いません。

反省

四組 くま

堀 内

健

カフ隊へぼくが入隊したのは、三年前でした。キヤンプも箱根と富士見高原と昨年は秩父二瀬ダムでした。行く前は、もういくつぬたらと、指をおつて教えていました。どこも、よい所ばかりでした。一番初めの時ぼくは、めて外に出て、ヒまるとかと思つた時は、何ともいえなさをひしひしと。一日とまったら、なれてしまった。帰りに駅についた時はほっとしました。それが一年ぶつ年をとってまた、なれて、うれしくなりました。もっといいと思つようになり

ました。今年ももうじき、つれていってくださるのを氏のしみにして
います。ぼくたちはよろこんでさわいので遊んでいるけれど、隊長
はいのデンマザーといつきの皆さんは、ほんとうにたいへんだとい
うことがだんだんわかってきました。これからはもっと反省してよ
いスカウトになろうと思います。

十五周年のお祝いによせて

ボーイスカウト団長 岡田 栄

今

井

栄

「わたくしは極めて幸福な生涯を送りました。ですから、君たちの
一人々も又、幸福であることを念じます。……」この静かなる心に
満ち、子供の幸せを心から念じられた言葉は、私を驚かした。こ
れは、ボーイデンパウル嬢の最後のメッセージのなほまりである。
近頃、私はこの様に心の奥いところを静かにくはるが、非常に深
く打った言葉を知らないほどである。

まだ子供が幼かった頃、私はじめて幼稚園や教会学校で聖書の
言葉を教えられた彼は夜中に一人の手荒いに起ると、暗い廊下で立
ち止り、大きな声で「恐れることはない。」と自分に言いかけ、歩
出すのであった。親馬鹿の故か、当時私は、彼なりのやうした聖書
の解釈にいたく打たれたものであった。あの頃からもう五年もの日
が経ち、彼は黙々と雨の日も風の日も教会学校に通い、その間に
カフスカウトにも入れて頂いて早や二年の日が過ぎた。そして彼は

時々私にこう言うのである。「僕、この頃、聖書に疑いがあるのよ
と。」

時々、子供のすること気が入らないと私はつい気短かになつて
「そんな風なら、スカウトをやめさせます。」と言つてしまふ。子供は
必死になつて、やめさせないでと泣き出さんばかりである。私はふ
と、この幸せな子と慰うのである。そしていつも、この世のもつと
多くの子供達が、一人でも多くスカウトの一員になつて、その本当
の心に入れることが出来たらと思つのである。

伝説ある四団のスカウトが、今度十五周年を迎えられるときさ
お祝いすると同時にその発展を祈ること切である。けれども、伝説
の美しい名にふかれて四団の持つ意味を、どうか突々も忘れないで
ほしいと祈らずにはいられない。

ボーイデンパウル嬢も言つておられる。「神さまは、幸福に楽しく
暮す様、私たちを、この世にお下しになつたのだと信じます。……」
と。伝説ある四団のスカウトの行く道はここにあるやうである。ど
うか、スカウトの一人々が、神さまが望まれたやうに、心身共に健
やかに、幸せに強く生きて、この世の良き一員となられますやうに
祈ります。この世に、幸せな子が満ちあふれますやうに。

今井 栄
ボーイスカウト団長 岡田 栄
（一）
（二）
（三）
（四）
（五）
（六）
（七）
（八）
（九）
（十）
（十一）
（十二）
（十三）
（十四）
（十五）
（十六）
（十七）
（十八）
（十九）
（二十）
（二十一）
（二十二）
（二十三）
（二十四）
（二十五）
（二十六）
（二十七）
（二十八）
（二十九）
（三十）
（三十一）
（三十二）
（三十三）
（三十四）
（三十五）
（三十六）
（三十七）
（三十八）
（三十九）
（四十）
（四十一）
（四十二）
（四十三）
（四十四）
（四十五）
（四十六）
（四十七）
（四十八）
（四十九）
（五十）
（五十一）
（五十二）
（五十三）
（五十四）
（五十五）
（五十六）
（五十七）
（五十八）
（五十九）
（六十）
（六十一）
（六十二）
（六十三）
（六十四）
（六十五）
（六十六）
（六十七）
（六十八）
（六十九）
（七十）
（七十一）
（七十二）
（七十三）
（七十四）
（七十五）
（七十六）
（七十七）
（七十八）
（七十九）
（八十）
（八十一）
（八十二）
（八十三）
（八十四）
（八十五）
（八十六）
（八十七）
（八十八）
（八十九）
（九十）
（九十一）
（九十二）
（九十三）
（九十四）
（九十五）
（九十六）
（九十七）
（九十八）
（九十九）
（百）



カブスカウト

二組 うさぎ

かわべ しろう

カブに、入ってから一年たちました。ぼくは、いつも上よう日
 びのしくてしようがありません。いろはるなたのしいことがあり
 ました。一ばんよかったのは、夏のキャンプでした。ママとはなれ
 るのがちよつと心ほそかったのです。こんどの毎休もどこへ行く
 のかたのしめです。ときどきおとうさんや、おかあさんをきようか
 いへよんでごちそうをしたり、ハイキングに行つて、おかあさんた
 ちにごちそうを作つてもらつてたべたこともあります。お友だちも
 たくさんできました。ほんちよつと古えくんも大好きです。デンマ
 ガーもやさしくて大好きです。こんどおにいちゃんかボーイスカウ
 トに入つたので、いつしよにきよう会にいられるので、うれしくて
 たまりません。おにいちゃんかボーイになかなか入れなかつたとき
 は、ぼくは、とてもしんぱいしてかあさまにたのみました。こんど
 おにいちゃんも、せいふくがきられるようになってとても大よろこ
 びでした。ぼくも、うれしいです。ぼくは、カブのせいふくをきる
 となんだかえらくなつたようなきがします。これなら、ぼくは、
 やくぞくさだめさまつて、よいカブになろうと思ひます。大きく
 なつたら、すぎはらいたいよう
 のような、たいちようになります。



おりょうりをつくつたこと

五組 うさぎ

小 玉 すみやす

ぼくは、はじめにみんながもつて来たおさらをあつめてから、い
 やかいものを栗田君とあらいました。それが終つたら、こんどはいや
 かいものかわをむいたのを切りました。デンマガーは、にんじんを
 こまかく切つて、おさらにいれました。だいたいできると、できた
 ものをおなべに入れて、十五分ぐらいふかりました。
 こんどは、インスタントコーンスープを作つてから、田玉やきを
 作りました。ぼくは、めだまやきを一かいしつは、いしました。もう
 一どしつは、いしました。それから、ケチヤップとマヨネーズをまぜ
 てから、みんなおさらのにせて、組ごとをたべました。たべた時は、
 とてもおいしくなつたでした。いつとどういようすにできたのは、も
 もずみくんでした。

おとうさん

三組 しか

小 松 龍 一 郎

ぼくは、おとうさんをパパとよんでいる。パパはとてもふとっ
いて大きい。

おっせん、ぼくは、パパとボクシングをした。パパとぼくとの
ボクシングは、ながくつづいた。そして、とうとう九ラウンドが
なった。いよいよさいごのけつりようせんだ。ぼくは、大きなパパ
をにらんだ。パパもぼくを見た。ぼくは、パパに、いきなりハナを
うたれてはなちがでってしまった。パパはびっくりして「ごめん、ご
めん」と、あやまった。そして、けつりようせんは、とちゅうでヒ
リやめとなった。

パパはおこるとおによりこわい。おこられやつにになるとぼくは、
まっさきににげる。「にげるがみちだ」というこぼれがあるからだ。
でもやさしい時は、すぐくやさしい。ときどき、ぼくは、学校の
しゅくだいが、わからないときがあるの、ママやおねえさんにき
くとたかいわなるけど、わからないときは、パパにきく。するど
いパパは五分ぐらい考えて、すぐこたえてくれる。そんな時、やつは
りんくの、パパだと思ふ。

デンマザー雑感

春

冷かかった上の中から小さな草花の芽が、よきによきと頭をみせ
る頃になると新しい小さなスカウトが、沢山入ってくる。今迄、小さ
く感じていた、りすやうさぎのスカウトが一段と大きく立派に見えて
くる。子供達も小さなお友達をちらりと横目で見ながら、一つ／＼の
動作にもお兄さんらしくふるまっている様子が、あちらこちらで見
けられほほえましくなる。冬につめたい風とちがいに暖かい風につ
まれば大輪になり、「いつも元気」のかけ声で、思いきり飛び上がる
と、とても気持ちよい。

しかし一方、冬の間における生活の反省などで頭をなやます時
もある。又、夏のキャンプ、年間フ口作成と忙しい時もある。一
年向を反省し、今年も頑張ろうと一歩一歩前進を望みつつ生活する
始よりである事は「希望の春」という感じがある。

一組 渡 辺 広 子

夏

夏!

秋

くとたいたいぬなるけど、わからぬときは、パバにさく。するとは五分ぐらい考えて、すぐこたえてくれる。そんな時、やっはりほくの、パバだと思ふ。

七月

そして夏休み

待ってました。カブキャンプ。

イヤッホー!

少し調子が良過ぎて心配だけれどもカブの本当の気持はこんな。夏休みの落懸帳が二三頁進んだ所でまずは三泊四日の用意のリユックサックが背中をかつしりと答える。「キャンプまで後何マイル、歩いて休んで十マイル」もうこっちのゆるサとお腹で呟く。ほくそ、要んだりニコニコ出来るのは一回とキャンプ生活をして制服にハフのついてるカブ達。四月からの新入カブは期定と不安の気持で一杯。その上一人ふ始めて家を離れ重たいリユックで頭はぐらぐら足はヨタヨタ目はキョロキョロ。こんなに情なくないけれども心配は心配。「でもでもサすごく楽しかったぜ」がキャンプの終った後の感想。

「おむすび持ってピクニックだろ」

「火をかこんでキャンプファイアーしてネ」

「お化け屋敷に行つてこわかったぜ」

「僕なんか二段ベッドにねんだヨ」 沢山沢山、カブ達は夏のキャンプで一度期に仲間と趣味が増が拡大される。そしてデンマサーは皆が仲良く楽しんで来た事を感謝し、これから、又これから、と思ふ秋を迎える。その頃には新入カブにも少しばかりハクがつく。

五組 持地 粹

夏

秋

隊長以下にぎやかなる動物たちの野外生活。キャンプが終り、夏の秋。あはれて食べてテヨッピリ夏のキャンプを懐しく思い出しながら栗や柿のみのついている郊外へ一族のハイキング。お弁当なし、なまのじやがいもや入蔭をかついでハイキング。一步ふみ出して追跡サインに心をうはわれ目的地についてお腹に手を当てて思ひ出す。「おやつ食べていい？」 私もまよう 食べたしどうするんだらう。こゝ食に困つてカブ並故の悩んだ。

お母様方のうでのふるいどころ、野外料理に舌つつみをうちつつペイジエントのこゝをひと心配。みんなの創意にまかせてふたを開けてみたら、——子供って同じこゝしかな考えないそれにしてもし恐しい映画とテレビの影響。あつちの組もこつちの組も西部劇。死んだり生き返つたり。なんど楽しそうなこゝ —— 一箱になつてゲラゲラ笑つてよろこんで、後で隊長にテヨッピリお小言が心にひびいた。やっはり全部カブの心になりきつて子供の考え出すことに感心しきつていたんじや進歩しないにきまつているなと 反省

二組 萩原昌子

冬

秋のピクニックに続いてクリスマスという大きな行事が、お正月を迎えてやつてきます。おつと夏秋と戸外の生活が多かつたカブ生

活もこれを機に室内へと移ります。最も室内に入ったからといって
 並花のように静かになるというはすはありません。クリスマスの例
 の練習では外と同じように元気にしびまわり、皆で騒ぎよせてスト
 ーリー作成に懸命になります。スカウトは色々な学校から集まっ
 ている関係上、劇の形成も様々で思いもかけないアイデアが生まれ
 します。劇の交換プレゼントのあと静かな正當の意味のクリスマス
 の式典で会が終わります。もうすぐのもので聖書を読みお話をさく
 時々マーチスカウトとしての精神が知らず知らず一人一人の心に
 ざまれていくのではないかと思います。このようにして新しい年を
 迎えるのです。新年第一回の集会はおしるこパーティーです。カフ
 は良く食べる会を隔くという事を云われますが、一年の計は元旦に
 ありで、お一回集会に食べる会をもつてくるのからなましれません。
 一月二月三月の集会は大休工作や読書で過ごすごすことになって
 今年も組の整理箱作りが大わらわらという所です。それも終るころに
 は新しいスカウトも入り、又戸外でのびのびと出来る季節がやっ
 くるのです。

三組 望見明子

デンマザーのこゝ

「デンマザール」と呼ばれる様になったのが、四年前のこと
 何もし始めて経験し、体験する指ばかりで、敬礼するのが恥しく

いやでした。皆も板入隊の時に隊長やリーダーから「指をピンとし
 て」と注意された事があつたからしよう。デンマザールも同様で、ある
 時、デンターフから「デンマザールの敬礼は下手だなあ、鏡の前で練
 習するんだよ」と言われ、家へ帰り何度もやってみたり。他の「デ
 ンマザール」達はカブに貸けぬ程元気な、オテンバを發揮し、普通一般
 の女性が心得るおしゃべりを大変嫌いました。一番好きなことは、食
 べておしゃべりする事。おしゃべりやな隊長は入る余地なく、一人一
 人が鏡けずにしゃべるのです。

でも四年過ぎた今、大きく成長したスカウト達を見ると、デンマ
 ザール達も皆のオテンバが自然に起られ、女らしくなったことを感じ
 ます。

四組 新崎 久美子

渡辺 敏子 — 年少隊一組「デンマザール」(一九五八)。電設研究所勤務。
 持地 梓 — 年少隊五組「デンマザール」(一九五九)。東京衛生病院勤務。
 萩原 昌子 — 年少隊二組「デンマザール」(一九五八)。全一タム銀行勤務。
 望見 明子 — 年少隊三組「デンマザール」(一九五八)。
 新崎 久美子 — 年少隊四組「デンマザール」(一九五八)。

持地さん、カールスカウトの経験あるだけで他の四人は四年前迄ズブの素人。現在では立派なデンマザールに成長。マザールとつくと、年配かと思ふが、さにあらず皆大変若い。ウルサイ杉原隊長の下で可愛いかぶを指導するのを見ているとたのしい。五人は趣味は食べて、しゃべる事らしい。

反省

（以下は横書きの文章が部分的に読み取れる）

「デンマザー」レと呼ばれる様になつたのが、四五前のことです。何もなみ始めて経験し、体験する事はかりで、敬礼するのが恥しく

反省

志水 功

「ほゝえみ」をもつて人に仕えよ、諸君よくご存知の通り、初代隊長の今井さんが私達に下さつたことはです。原語の語呂が良いのと、かつき易い座右の銘という印象から、何となく私の信条になつていたつもりでした。

でも、此のことは、実行のむづかしいことはありません。社会に出て、初めて分りました。現役スカウト時代は反省する他の余裕などなく、今思えば、恥しいことの連続でした。学校を出て、友達も親類も先輩もいない北海道に来た時、今こそスカウト精神を發揮して、立派な社会人になつて見せようと思つたものです。然るに、私はそんなに甘くありませんでした。からい、にがい、しよっぱい

志水 功 一 年少隊初代隊長（一九五四〜五五）。カールスカウト団委員長、志水興先氏のお子様。妹さんもカールスカウトならりターと、スカウト一家。発隊と同時に初代ワシ班々長。ソング、マススタ。歌の指導だけでなく国歌の作詞、作曲、鼓笛隊設立、男性コーラス編成、ダーク&ツクス等より、つと比並格。その他作曲、交曲と天才的才能の持ち主。音楽のみに止まらず、スポーツ万能。フアイトの塊。人なみ以上の力量。大学卒業後、獣医として北海道へ。当地で結婚され、現任一女のハハ。

望見明子 一 年少隊三組デンマザー（一九五八〜）。
新崎冬季 一 年少隊四組「デンマザー」（一九五八〜）。

ウルサイ杉原隊長の下で可愛いかぶを指導するのを見て、いとたのむしい。五人共趣味は食べて、しゃべる事らしい。

のです。いや、それよりも八五間のスカウト生活で身についた器のスカウト精神が全然自分のものになつていない事に気が付いたので、

苦笑、親切、常に備える事などは、社会生活に欠く事の出来ない要素だから、誰でも努力するし、又、しなれば社会人として失格します。しかし、ほゝえみはそうは行かないのです。仏頂面でも仕事さえすれば通用するのです。だから余計難かしかつたのです。

色々面白くない事にあつても、少くとも人にはいつもほゝえみを忘れない様に努力し、部屋に帰つてからウツパンを音楽などで慰めたものです。独身のうちはまだ良かったのですが、結婚してみると、「ほゝえみの難かしさを一層痛感しました。と云うのは、外で作つたほゝえみの反動として家に帰ると仏頂面になる日が出てしまつたからです。北海道で内面ツラが悪いと云う方がありますが、身についていない事を無理してやろうとするためなんです。毎日毎日反省しては、また同じ事のくり返します。それでも近頃は、大分苦痛を感じる事がなくなり、内も外も同じく自然には、ほゝえみをもつ事の出来る日が多くなつて来ました。七年もなかつたね。

諸君は、今は少し位口をどんからせても良いから、そのたびに努力してほゝえみを自分のものにして下さい。例えば、諸君の先輩である安積さんの仏頂面を見た事がありませんか。

彼は、ほゝえみが身につけているのです。実社会に出た時、それが想像以上にぎびしいものである事に驚きはしても、決してほゝえみを忘れる事はないでしょう。

諸君もそうである事を期待してやみません。

スカウト運動の起り

一九〇九年、英国に於いて初めて、スカウト運動が発足し、後に世界的な運動として諸外国に伝えられ、一九二〇年、日本でもこの運動が初められました。ここに、この運動の先駆者であるベーデンパウエル卿、ミス・アグネス・ベーデンパウエルについて記したいと思ひます。



ベーデンパウエル卿

ロバート・ベーデンパウエルは一八五七年二月二十三日、英国のロンドンの名望家に生まれました。彼の母は三十七才で寡婦となり六人の実子と三人の継子を育て上げました。家族の会話は優々自然、科学、絵画、工作等に及び、当時の名士ラスキン、ダーウィン、ハックスレイ等も、ベーデンパウエル家を屢々訪れました。姉のアグネスは、蜜蜂を飼ったり、カナリヤの世話をしたりすることが好きであり、又音楽や外国語にも造詣が深く、自転車乗りも中々巧みでありました。兄弟達も揃って多方面に豊かな才能に恵まれ、いつも他の人々を惹きつける優しい家族でありました。英軍第十三騎騎兵隊と共に印度に駐屯して居る時、ロバート・ベーデンパウエルは、部下の将兵は学問的知識は充分に習得しているが、戸外の生活に應用出来る實際的な知識、技能、工夫に欠けており、のみならず立派な兵隊としても、又立派な生涯を送る爲にも欠くべからざる性格の強さを見えていない事が気がつきました。そこでロバートは部下に、彼自身が南阿戰爭中冒險したり、斥候したりした経験や、狩猟や魚釣りに出掛けた時のこと、原住民と共に仕事をした経験を話しました。ロバートは幾度も危機一髪の命懸けで、その同僚的な注意と愛の観察力を身につけました。彼は凡ゆる種類の人々と接し、剣道力豊かで、奇習に富み、勇敢で、一貫した精神を持ち、スポーツに長じ、重宝と譽れる文字通り、一巻のスカウトでありました。ベーデンパウエルは、兵士としての訓練を受けた後、北の氷川に上り、それをスカウト・キャンプのモデルとして築きあげたのを記しました。一九〇七年方々の謹慎をする傍、ブラウニング、アイランドで試験的なキャンプを催しました。この時少壮は厳制度に従って行動しました。キャンプは大成功であり、ボーイスカウト運動が正式に始つたのは一九〇八年であります。一九〇九年ボーイスカウトの大会が、始めてロンドンの水晶宮で開催された。

れた時、一万一千人の少年が参加しました。スカウトの仕事は決して片手間で出来る仕事ではない。彼はすでにこれを彼の後半生の仕事にしようとして決心して居ました。もうこれまでに戦争の醜さを充分なめつくし、彼の魂は平和を慕って居りました。彼はこのオニの人生への門出を次の様な比喩であらわして居ります。「若い惚れたサーカスマ、さんざ曲馬園で使われその役目を果して後、今度は静かに着着いてパン屋の重宝さという百態義は仕事に乗り替えることも遅くはなみろうじ。平和なパン屋の重宝さ」は遂に世界的な運動になり、数百万の少年少女、世界各国の心ある男女がこれに加わり年と共に益々盛んになってゆきました。

一九二九年、サーロバート・ベーデンパウエルは、郷の列に加えられ、スカウティングのために、全力を傾け、諸外国に於ける同運動を激励しました。彼は一九三八年にスカウト運動の唯一線から退き、翌年家族と共にアフリカに決り、一九四一年永眠するまで、アフリカのケニアに余生を送りました。



ミス・アグネス・ベーデンパウエル

少女達の爲のスカウト運動は一九〇九年ボーイスカウトがロンドンの水晶宮で大会を開いた時を契機として始まりました。その時少年の列に加わつて、大勢の姉妹達も一緒に行進して行きました。まもなく六千人の少女がボーイスカウトの本部に登録し、備品を購入し、兄弟と同じ着をして居るのでした。ロバート・ベーデンパウエルはこの時どうしても少女達のために是非共別の組織が必要であることを痛感され、ミス・アグネス・ベーデンパウエルに助けを求めました。ミス・アグネス・ベーデンパウエルは後に彼女自身をガイドのお祖母様と呼んで居ります。アグネスも、ロバートと同様多岐に秀でた、非凡な方でありました。若い人々を愛され、亡くなる二、三年前まで田舎と共にギャンブル生活を楽しみました。一九一〇年、彼女は初代の養親となり、かくしてガールガイド・ガールスカウト運動が始まりました。一九一〇年二月六日、最初に登録されたオニをミス・ベーデンパウエルの団と呼びました。一九二二年、事務所も整い、少女達の爲のハンドブックも出ま上り、名前もガールスカウトからガールガイドに変更し制服もカーキ色から紺に改められました。最初年令は十一才から十五才までと制限されて居ましたが、小さな少女達も姉達の仲間入りをしたが、最初は、はらの齧、ひばり、蜜蜂等の名前がつけられました。一カ一四年ベーデンパウエルの提案で「ブラウニー」(他の人々の爲により争を盡くする役に立つ小人) という名をつけられました。一九二〇年には更に年長の少女達の組織が出来る、レインジマアと呼ばれるようになりました。ミス・アグネス・ベーデンパウエルは、一九四五年六月二日その活動的な生涯を閉じました。

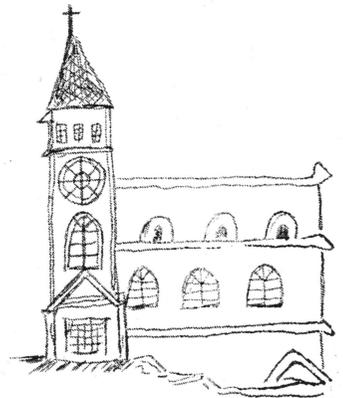
三つのちかい、十二のおきて、

あわせて十五のお祝いを――

靈南 坂 教会 牧 師
ボイスカウト部西區育成会長

飯

清



スカウトは三つの「ちかい」と十二の「おきて」をもちます。簡単な算数の問題ですが、この三つと十二を合せると十五になると言うのが、私達のスカウトが十五周年を迎えるにあたって、まず心に浮んできたことでした。

スカウトがもとよりキリスト教会の背景をもって始められたことは、他の人々はどうも知りませんが、この靈南坂教会に育った四郎の諸君にとっては、常識のようなものですから、繰り返す必要もないことでしょう。

さて入隊に際して「名譽に欠けては居るスカウトの「ちかい」の最初の言葉は神です。そつです。神と神とに誠をつくしとらぬうのくすくすしり私達やこのオ一の若者を忘れてしまえば、どんなに正義にふさわしく若弱くても、それだけなら生きていけるか、又進歩記録を受けたとしても、それでは全くスカウトの価値を失ってしまうのです。神に誠をつくす」というのは、結局信仰深いスカウトになるということなのです。これがスカウトの「歴史と全プログラムを」つらぬいていく根本原則」ということを、まず深く心に刻みつけて下さい。

① 十二の「ちかい」は、おきての③に「おきて」に対応するものでしょうから、そこで説明しましょう。

② ③の「ちかい」は、体を強くし、心をすこやかに、徳を養ふ」とあります。私達の「おきて」は、心としてイエス様の少年時代を記した聖書の記者に、「イエスはますます知恵が加わり、背たけも伸び、そして神と人から愛せられた」とあります。私達スカウトもこれにならいたいと思ひます。

④ 十二の「おきて」については、聖書の中から一句ずつ引用して簡単に説明しましょう。

⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩ ⑪ ⑫ ⑬ ⑭ ⑮ ⑯ ⑰ ⑱ ⑲ ⑳ ㉑ ㉒ ㉓ ㉔ ㉕ ㉖ ㉗ ㉘ ㉙ ㉚ ㉛ ㉜ ㉝ ㉞ ㉟ ㊱ ㊲ ㊳ ㊴ ㊵ ㊶ ㊷ ㊸ ㊹ ㊺ ㊻ ㊼ ㊽ ㊾ ㊿

① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩ ⑪ ⑫ ⑬ ⑭ ⑮ ⑯ ⑰ ⑱ ⑲ ⑳ ㉑ ㉒ ㉓ ㉔ ㉕ ㉖ ㉗ ㉘ ㉙ ㉚ ㉛ ㉜ ㉝ ㉞ ㉟ ㊱ ㊲ ㊳ ㊴ ㊵ ㊶ ㊷ ㊸ ㊹ ㊺ ㊻ ㊼ ㊽ ㊾ ㊿

います。

③ 「人の力になるとは、ちひいのオニの、人々を援ける」というのと同じようなことでしょうか。ルカ福音書の「善きサマリヤ人の物語」のように、立派なことを言うだけでなく、黙って直ぐ手をさし出して、困った人を愛して行く態度です。

④ 友宜にあついているのは、カビテとヨブタンのような、どんなに事情があつても、いつも助け合い、はげまし合う友人の交わりのことです。

⑤ 礼儀正しいというのを、オ一コリント十三章にある有名な愛の歌の中には、「高ぶらない、誇らない、不作法をしない」と教えています。まったく美しい、素晴らしい書きかけです。

⑥ 親切とは、自分を後にして、隣人や他人を先にすることです。これを聖書は「愛」という語であらわすとともに、「喜ぶ者と共に喜ぶ泣く者と共に泣きなさい」とも教えています。

⑦ 従順とは、やさしく云えば素直さです。ギリストは十字架の死を前に「ケツセマテの國でつわたしの悪いではなく（神）の御心のままになさうと云う」と祈られました。これが、これこそ神への完全な従順と云えましょう。

⑧ 快活とはよく云せず、感謝にみちみて、いつも微笑していることです。聖書は「いつも喜んでいなさい。絶えず祈りなさい。すべての事について感謝しなさい」と語っています。

⑨ 質素とはせい次の反対ですが、一切を神様にまかせ、神様の与えて下さったものに満足して生き行くことです。イエス様は野の花がどうして育つかを考えて見るがよい。……栄華をきわめた時のメロモンでさえ、この花の一つほどにもなかつた。人間の

し、それを愚かだと承されました。

⑩ 勇敢とはガムシマラや神風タクシーの謙な暴走ではありません。神を信じ、小石だけを以て、よろい、かぶとの豪傑ゴリアテを倒したカビテのような信頼から出て来るものです。

⑪ 純潔とは体も心も、考えも言葉も清らかで、汚れがないことです。真のスピリットマン・シッフが、その人の生活全体におふれている事と云えますが、これは信仰者にだけ出来ることです。「心の清い人」は幸いであるとはこんな人をさしているのです。

⑫ 慎しみ深いと記されている愛語は信仰の敬虔さです。「牧師」と同じ語彙をもっています。聖書には、思いあがることなく神の名前に分け与えられた信仰のはかりに従って、慎しみ深く思うべきである（「ロマ一、三」と教えられています。

このように、聖書に学びながら私達は三つのちかい、十二のおきてを覚えなおしてみました。

さうです。全部が十五ありました。この十五年向を思いかえし、感謝しながら、次の十五年間の歩みをすすめるために、もう一度、この三つのちかいと十二のおきてを讀みかえし、しっかりと心に刻みつけたいものです。

ブラウニーと私

ブラウニー

井 上 淑 恵

私は、ブラウニーに入ってから四年近くなりました。なわのむすびが、きゆうきゆう法など、いろいろおしえていただき、道しるべをしり何々と便利になりました。ブラウニーでは勉強をしないと思っていました。でも、地図の見方、国際ゆうこうの月の時は、外国のことを勉強しました。歌などはきれいで歌わないのに、今はとても好きになりました。

ブラウニー

豊 原 妙 子

妙子は、二年生の時の、のぶ子ちゃんといふ、二人で、ブラウニーにはいりました。もう、はいつてから一年とってしまつた。なぜ、こんなに早く、一年がたつてしまつたのかわからない。うれしかった日も、つまらなかつた日も、いっはいいあつたけど、ブラウニーは好きです。毎週、毎週、のぶ子ちゃんか、妙子のおうちに二時十分ぐらにおむなえにきてくださつて、いっしょにブラウニーに行きます。妙子は、しらないお歌をなつたり、お話を聞いたりして、とても楽しいです。夏になると、キャンプに行つたりして、とてもたのしいです。

おねえちやまか、リーダーになつて、妙子は、おねえちやまといふけど、みんなは、ほかにいうとおもう。けど、やっぱり、妙子は、おねえちやまといつてしまひます。

四田といついつまでも

ブラウニー リーダー

西 郷 豪 子

「もし、私からスカウトを取つてしまつたら？」これは、時にふれ折にふれ、しほりは考え、また、感じることです。

「ちやうど、可愛いがつていたたった一人の弟をなくし、寂しかつていた時に私はスカウトを知りました。

学校でも家庭でも、また、教会でも満されず得られなかつた面を、スカウトは良き指導者と友人を与え、私を励まし育てて来てくれました。ふりかえつてみると、私も十年を越えるスカウト生活を、十五周年を迎える四田の一員として続けて来たことになりました。ただ、感謝と花ごび一杯です。

現在、ブラウニーのリーダーとして、エックコ先生（根本夫人）の役を受け継ぎ、かたらず充分なことはできずともお手伝いさせていただいているのも、榮しかつたこと、うれしかったこと、苦しかつたこと等、スカウトで受けた多くのものを自分だけのものとして、しまつておけないからです。自分の力の足りなさ、弱さを思う時、また、まだスカウトを理解しきれない者の間で活動を続けて行く時、

西郷家子旧姓、原一ブラウニーオニ代目リーダー(一九五九)。突
 田後まもなく入団し、初代ブラウニーリーダー根本さんの下で副リ
 ーダーとして活躍。明るく、朗かひで団の人氣者。昨年五月結婚し、
 ガールスカウトオニ三代目リーダー西郷さんの妹となる。

その上、自分の家庭を持つようになってからのこの一年間、リーダー
 という役を果して行くといふことの難しく、容易ならぬことを感じ
 ます。しかし、白いブラウスにエンジのスカートをはいて、可愛い
 いトンガリ帽子をかぶった、元気よくつたくのないうブラウニーたち
 は、私を励まし、全てのわずらわしさをひらめけ出す力を与えてくれ
 るのです。そして、また、スカウトから離れることの出来ない自分
 を知るのです。うれしいうれしいにつけ、楽しいにつけ、また、さびしいに
 つけ、悲しいにつけ、私の力になってくれる団のスカウトを、新
 しい自分の家庭と一緒に、いつまでも大切にしていきたいと思いま
 す。

ブラウニーと私

ブラウニー

大 井 淳 子

私は、ブラウニーにはいつてから、いいけいけんをしました。キ
 ャンプにはいけるし、なわむすびや、いろいろな事をおぼえられます。
 私は、ブラウニーで、つらいことも、いいこともありました。今年

は、ガールスカウトになります。ガールスカウトにはいつても、い
 っしょうブラウニーのことはわすれませんが、大きくなったら、いっ
 しょうの思い出になると思います。

また、びんびんギャンプに行つて、ガールスカウトで、テントを
 はつたりして、たのしくすごしたいと思います。

大きくなったら、さいごうせんせいのようになり、リーダーになつて
 みんなにいいことを、おしえてあげようと思います。

ブラウニー

原 展 子

私は、去年の五月にブラウニーに入団しました。たえこちゃんに
 すすめられてくるようになりました。それまで、私は、ぜんぜんブ
 ラウニーというものがあることは知りませんでした。おうちから教
 会まですこし歩きますが、まい週土曜、たえこちゃんのおうちえよ
 って教会へ行きます。私は、ブラウニーに入つてよかつたと思いま
 す。だって、なわむすびや、いろいろなことをならうから、大きく
 なつてからやくにたつと思えます。だから、ブラウニーのことは、
 きつといつまでもわすれないでしよう。

ブラウニー

豊 田 きよみ

私は、今、ブラウニーに、はいつて二年近くになります。私のお
 にいさんは、ボーイスカウトにはいつていたので、私もまえから
 ブラウニーにはいりたいと思つていました。ブラウニーで、いち番
 楽しいことは、夏のギャンプです。去年は、山中湖へ行きました。

それなら、このまえ、ワシントンハイツにいつて、フォークダンス
をしたり、おにごっこをしたりしました。けれどまだ、私達は、英
語ができません。今度行くまでには、英語をよく勉強してから行き
たいと思います。

もうすぐ、私もガールスカウトになります。私は、ブラウニ
ーにはいつて楽しいことばかりあったので、はいつてよかったです。
います。

ブラウニーに御奉仕して

ブラウニー団委員長

佐藤 淑 生

長女が、ブラウニーに入団したのが小学二年生の時、それと同時に
に奉仕させて戴き、時のたつのははやいもので、はや四年を過ぎま
した。団委員長と云う肩書も載せても、そのお役にふさわしい御奉
仕をしたかしらと、振りかえつて思うのです。リーダーの方に、お
んぶしてしまつたかたからで、夢中で働いた月日でした。その間、支
那の、横の連絡を密にと、互に二度にお集りを開く機会が充足し、支
那の方々ともお親しくなり、ブラウニーの御恩等もお話し合つた手
が、視野を広く充された事は、感謝でございます。

私の後う事は、御父兄の方々が子供達のために、集団生活を理解
し、多くの友と一緒にいける子供であつて欲しいと思つので
す。はじめて参加したブラウニーの那須のキヤンプの折に、軍隊で

使う鉄釜で、御飯を炊く経験もさせて戴き、多くのお子さん方と一
緒に掃除をして、御布団をはみ出しはしないか、ぶつかり合わない
かと案ずる方が先でした。その折に、みんなが食べられる食事か、
一人食べられないか、御子さんのいた時に、お家での生活が思いや
られて、親しい気がいたしました。

集団生活の訓練は、子供さんの云いなりになつていたので、そ
の生活が出来るのではないのでしょうか。大勢の子供達と生活す
る事は、一人よがりではない、みんなと共に、歩んで行ける御
子さんに、親も共に勉強して行きたいと思つています。

佐藤淑生—ブラウニー団委員長(二九五八一六三)。今年四月よりガ
ールスカウト団委員長となる。御主人もボーイスカウトの団委員。お
子様二人は、それぞれ、ガールスカウトとボーイスカウトの団員で
文字通りのスカウト一家。



549 Walnut Street
Centreville, Alabama

February 19, 1962

Tokyo Troop # 4
Boy Scouts of Japan
Reinanzaka Church
14 Reinanzaka, Akasaka
Minato-ku
Tokyo, Japan

Dear Scouts:

On February 22, there will occur three important anniversaries. February 22 is a national holiday in the United States, because that is the anniversary of the birth of our first President, George Washington, who was born on February 22, 1732. Of particular interest to all Scouts throughout the world is the fact that Lord Baden-Powell, the founder of the Boy Scouts movement, was born on February 22, 1857. But most significant to me is the event that took place just 90 years later, on February 22, 1947, at Reinanzaka Church, when George Imai and I held the first meeting of Troop # 4. It was rather chilly Saturday afternoon, which I still remember vividly. I believe there were about 12 boys present.

That next few months saw a great deal of activity in connection with Troop # 4 - hikes participation in rallies with the other five Tokyo troops, our first big rally which featured Crown Prince Akihito, Mrs. Elizabeth Grey Vining and Father Flanagan of Boys' Town as guests of honor, and the expert singing of Troop # 4, which included "Keep Climbing", "Trail the Eagle", "The Whiffenpoof Song" and "Dixie". By the time I left Japan in 1952, Scouting had begun to become quite a big thing, and the national rallies were attended by several thousand Scouts.

I have quite a few pictures of the troop during its early period, and while I can't recall the names of all those who were members then, I remember that the troop included Aragaki, Iida, Imada, Kozaki and Shimizu. My last direct news of the troop was received from Masami Ishikawa, one of your former Scoutmasters, when he spent two or three days with me here in 1959. As it was always my custom to give the troop a party on its birthday, I'm writing to express to you my sincerest best wishes for your 15th Birthday on February 22, 1962. You have always been an outstanding troops, one which I felt could never be excelled by any troop anywhere, and I hope this record of excellence will continue far, far into the future. Please write me and let me have the present-day news of the troop, and when any of you visit the United States, please let me know, as I would be happy to have you visit me. My best wishes are always with you.

Yours in Scouting, Martin Williams

海外派遣

四国の輝かしい歴史のなかで、一九五五年のジュリエットローセツションにて、スイスへ行かれた万井さんから昨年の沖繩派遣の吉田君迄の間に、

十人ものスカウトが代表として諸外国へ行き、その務めを立派に果して参りました。年代順にそれ等の記録や思い出をここにまとめ特集致しました。

スイスの思い出

萬井潤子

あれからもう七年、私のスイス旅行も随分昔のことになってしまつて、その記憶もうすれてしまいましたけど、十五年間の輝かしい四国史に一行を加えることの出来たこの旅行のことを、もう一度思い出してみるのも楽しいものです。

アメリカのガールスカウト運動の創始者、ジュリエットローの記念基金によつて、一九五五年、日本から二人の代表がスイスのマテルボーテンにあるスカウトの家、「アマシャレル」に派遣されることになりました。各国及ら推薦された代表が全国から二十余名集り、寒

い冬の大宮で二回にわたつて送るキヤンプが行われました。その結果、京都の堀口愛子さんと、どうしたはすみかこの私が代表でスイスへ行かせて頂くことになりました。

国際友好を目的とした交歓会ということに期待と不安が緊張しきつていた私達にとつても、この会は非常にのんびりとした家庭的なものでした。牛かのみびりと草をはむ長閑な山の斜面に建てられているアワシマレーは清潔なホテルといった感じです。一部屋に五人六人づつがクルースとなって泊り、一人のお金をめしたリーダーを中心に午前中は各々の国の紹介、午後は戶外ゲームや自由時間といった生活が三週間続けられました。到着した最初の朝の旗上げに旗手を仰せつたり、首尾よく上まで旗が上つたと思つたら、掲揚台がアケラサイズで繩をとめるのに手が届かなくなつたこと。国際クツキンクデーにすぎやきをするこゝになリ、お米を炊いてもらつたら塩味かたっぱりとついていたリ、お鍋をたの人だら水差しを持つてこられて説明に困つたこと。準備していった日本舞踊が二つではたり

なくなつて勝手に振り付けましたら種明しをされて、恥をかいたことなど。今では全てがなつかしい思い出です。当時、十七、八才だったスカウト達も今では大半がマダムやミスになつて自分の家族を守るためたわり、今でも何らぬの形なスカウト運動、活動の力になつてゐるようです。

この旅行を通して私は多くのことを学び経験することかできました。私が代表に選ばれた時、自分のことのように喜んで深夜の飛行場に暖かく送り返えをして下さつたりリーダーや仲間スカウト達、名前を祓して三指の挨拶と共に祝いのほがきを下さつたりボーイスカウトの方達。そうした仲間達の中に私は暖かい、立派なスカウト精神を見出し一人で感服したものです。美しい空と山と水の景色、楽しかったジュリエット・ローゼツシヨンの思い出のかけに私はそれにもまして心暖まる思い出を持つことか出来ました。

世界キャンプに参加して

今 田 宮 江

一九五七年 私達四国の十周年の年は、ペーデンパウエル生誕百年の記念すべき年でした。どうしたわけか、私にカナダのB.P.生誕百年世界キャンプ参加の幸運が舞いこんできたのです。ギリシヤ、オランダ、スイス、ベルギー、メキシコ、日本から各四名の代表がアメリカ連盟のジュリエット・ローゼツシヨンに招待されましたが、

前後五回の試乗の結果私が選ばれたことは、申し訳なく思うと同時に異常なまでの責任感におしつぶされそうになりながら、四国のお仲間やリーダーにはげまされて、羽田を立ちました。

二ヶ月半の間、アメリカ、カナダの各地のスカウトの家族にお世話になったり、テント生活ですごしました。その内で特に印象に残つてゐることを書きならべてみましょう。

ニューヨークで、自由の女神を見学するのに遊覧船では高いので一回五セントのフェリーボートに乗つて陸約しました。

ナイマカラのみやげ物屋のおじさんに、日本から来たのなら、日本の缶を買つて帰つてはだめだよと云われました。よく見ると、店頭インデアンのおもちゃやなび安くて気のきいた缶は日本製です。

北カリライナの地区キャンプでは、柳の水をかこまれた湖水で、カヌーをこいだり、月夜の晩にはカエル狩りをして楽しんでました。

世界キャンプでは、何といつても四十九ヶ国の国旗掲揚が初められた商會式に心を打たれました。この時ほど私達の国旗がほり高く思われたことはありませんでした。炊事は炭を燃料に使つたので、私達が一番上手で、外国のスカウトを指導しました。水泳やキャンプファイヤーの向に着物を着て踊つたり、お茶をその皿のものを利用してたててみたり、物々交際とか、サインとひで言葉交際に忙しく楽しい日々でした。

昔に失敗したことといえは、私のホッペのことでしよう。帰国予定の数日前、扁桃腺をほらせて、四十度以上の熱を出してしまつたのです。それだけなら驚ろかなかつたのぢしようが、私のホッパが真赤なので、熱病かもしれないというので入院させられて、四日間

隔離されてしまい、そのため帰国も、一週間近くおくれられてしまいました。どこでも暖かく迎えて下さった家庭に深く感謝しております。……国際姉妹愛は未来の公民の間に、個々に結ばれた友情と善意とは、将来の国際間の危機に対しても、強い保証を立証するだろう。

—— ベーデンパウエル ——

オ十回古界ジャンボリー

「世界の袖の下」

安 積 癸 也

「世界の中心は東洋だ」という人がある。いやそれは西洋だ。東洋はまあ世界の袖さ。とうそぶく人もいる。しかも袖にも上と下がある。僕は、はからずもその並の争辯をフリーリップンの旅をちらりと見たような気がした。オ十回世界ジャンボリーは一九五九年七月マニラ郊外のマッキリン国立公園で開催された。日本代表団は約五〇〇人の大人数、東京から三十五人、ブフニ隊、計七十人が参加した。オ四隊からはボス、ノッホ、カト四、オケン、それに僕、ハッテイと五人も参加し、いづれも隊の中心メンバーだったので楽しいことなど全然なかった。フリーリップン滞在と船に乗っていた期間とが同じという非能率的な旅だった。フリーリップン滞在はわが二週間、そのうち十日間はガラガラと暑いかかると太陽の猛暑と、バケツの水をぶち

まけたようなスコールとその後にできる泥沼の中で、汗と泥にまみれながらキャンピングしていたのだから一体全体何を見てきたのか未だにはつきりしていない。

好意した対日感情の現れか、我々のサイトは連日黒山の人だかりであった。なにせ五十一ヶ国からの代表だ。色とりどりの人、人、人、わかりにくいフリーリップン人の英語、騒音、どこへ行ってもウクレレと打楽器と歌、叫び声、スコール、泥、気味悪い食物だが素晴らしい果物、めまいのするような直射日光、これらがグルグルと渦をまいてる。これがオ十回古界ジャンボリーの印象である。

さて、「袖の上下の争だ」が、それは次のようにのことだ。毎日食料の配給をとりに行くのだが、一人一日一五〇〇円の食費にしてはどのように足りなかったし、規定通りの量をもらっていないかった。つまり改めて三日目の朝、我々の隊長は総本部へ、上級班長の僕は配給所へと文句を云いに行き、これし業を煮やしたカナダや香港のリーダーと共にカウンタを乗り越えて内に入り配給量を調べた。副丁寧にし玉子一個追加したもんだ。その最中総本部より電話がかかり、配給所の主任はピンハネをしてはいけないと、えらく叱られたらしく、以来態度が一変して丁寧になり、余分に送られた。しかしあとがいけない。こんな文句は決して総本部には云わないでくれ。自分達に云ってくれば何とかするから。というのである。他のピルマ、インド、インドネシアといったような国の代表はただ黙って少い配給をもらっていた。フリーリップンはといえは、偶然横をひそかにしゃべっているのを聞いてしまったのだが、「我々は食料が足りない。後で何か持っていくから我々にだけは少し余計にくれ」と云っているのだ。「袖の下」である。

何か暗然としてしまった。科学的に調べて文句をいう、いわゆる先進国。黙っている、いわゆる後進国。そしてワイロを使うフリーツピン。この姿をそのまま象徴として受取っては勿論いけない。又僕のみたフリーツピンのリーダーも例外的な一人だろうが、何か世界の縮図をみたような気がした。これは誰が悪いという問題でなく、何かこうさせてしまったかという問題であらうし、日本の汚職などと思えば決して大きな口は聞けないが、興味ある出来事であった。

ジュブリージャンボリーに参加して

日下部 英 一

見渡す限り本々とした平野を、一本のきれいに、舗装された道路が続く。タイヤと道路のこすれる音を残こしてバスは時速百キロ以上で進む。バスの外には一人の人影もなく、ただ自動車が走っているだけである。本当に広い全く広い。実際にこの目を見た。アメリカの広さに僕はうなずいてしまった。シアトルを出発し、そこから約二五〇キロの目的地、カンサス州ヤントジョセフに着いたのは、七月十六日であった。町の中心地を離れ、住宅街に移ると再び芝生の緑に目を奪われた。道路のわきから、どの家庭の隅りをもその緑が、つつんでいる。又、アメリカの家庭には垣根も、塀もない。単にきれいだと言うより、何かすがすがしいものを僕に感じさせた。大会前ならスカウト個人の家に行くことになっていたが、時間がな

く、この町のスカウトは大会の準備訓練を終え、ジャンボリーにのぞんだ。大会は、二十二日、二十八日までで、世界二十五ヶ国の代表を入れ約五万人のスカウトを集め、その規模は、大きくシマワール郵便局、病院、床屋、歯医者などの設備もあった。気候は、コロラドスプリングス滞在の十日間に、雨が一回、それもほんの三分で晴れるという天気の良い日であった。大会中、午前は自由時間もあまりなく、隊として射的、コロラドスプリングスの地理、生物などの説明を聞きに行つて、すごした。各自スカウトは、その期間中一枚のカードで与えられ、そこに書いてある項目、例えば、大会中に、木製のスライドを作るとか、他の地区のスカウトと一緒に客として一食を共にすることなどがあり、それに行つて、隊長にチェックしてもらつていた。キヤンプに、つぎもののキヤンプファイヤーは盛んで、大きい地区別のファイヤーの場合、陸軍の行進、ハーモニカの演奏、有名なスターの出演、又各隊から代表が出て、種り物の競を競い合い、最後にキヤンプオンを決めるなど大変多彩で面白かつた。しかもこのような催しに参加するにも充分な時間があり、自由時間も比較的多くとれるのは、各班毎に食事の準備をするのに時間がなからないからである。それは主食がパンであることが一つの理由であるが、ホットドッグ、牛乳、かんづめなどの時もあり、非常に簡単である。時間のかかる訳はない。しかも、これはジャンボリーだけで、普通のキヤンプはもっと大変であるに聞いた。しかも、それからできる自由時間を利用してトレイディングポストスカウト関係の品々を売つていたの周りは、いつもスカウトが一杯で、外国のスカウトや他のスカウトとの交換風景が随所に見られた。もちろん僕も大いに交換し、竹のチーフリングは特にモテた。又大会

中、沢山の友達かできたが、その中で同じ年令のギヤロツフとは時に仲良くなり、セントジョセフに帰って一泊を彼の家ですごし、乗しかつた晩を思い出す。

元氣あふれる沖繩スカウト

吉 田 健

僕が沖繩に行ったのは去年の七月、今年を越してしまつたのかと時々思い出すが、こうやって筆を取つてみるに又遠つたものがある。「日本ボーイスカウト沖繩親善交歓派遣団」、こんな長い名前をつけられてどうやら鹿児島港を出たのはすでに東京を出た八日後の

八月四日。それから九日、一四〇〇トンなる大きさの船にゆられた。那覇(ナハ)着後、直ぐ野宮大会の開催地木ワイトビーチに行く。

上田隊長以下一四名、しばらくしながら設置した。早くも暑さを感じてくる。翌日、極東連盟(沖繩は日本連盟に属しておらず)の二一四隊と共に、モールス信号、手旗、救急法を勉強したが、何といつても

驚かされたのは沖繩のスカウトの元氣さ加減であつた。そして駐長、駐員の肉体的スムースさ。何か原因でどういふのか不思議でした。

その折に聞いた事はどれも、沖繩のボーイスカウトは二の一隊から二一八隊迄あるそうです。スカウトですが、これはどした事が、たった一隊しかないそうで、我々のキャンプにも未でしたが、元氣が全然なく、その面では四隊のカブは優秀だと思ひました。カールスカ

ウトはとても健康的で、技能章タスキをかけている人が多く目立ちました。エクスプロローリースカウト(シニアスカウト)もとても元氣で親切でした。

この四日夜、町に出かけ、綱引きを見に行きました。綱引きといつてもたじろ綱を使うのではなく、幅八センチ、長さ一〇〇メートルはある蛇の形をした綱を、二手に別れて引き合ふのです。まわりの人は応援に熱中し、男も女も我儘出来なくなつて、一筋に綱を引き始めます。三十分後やつと勝敗が決した頃には、すでに空には星が光り始めていました。町は日本と大差がありませんか、それは大通りの争、少し横道にそれれば、山中の農村といったところでしょう。もちろん、那覇市最高の通りといつても、銀座や渋谷を想像してしまつては困ります。

翌日、再び二一四隊と一緒に洋舌とライフルの訓練をしました。僕の命令中は御想像にまかせますが、君の方は写真にとられて東京御内の各所に出来ましたから、見た方もいるかも知れません。夜は二一四隊のキャンプを訪問し、親しくキャンプ。ファイヤーを樂しみました。そのプロگرامに踊りがたくさん折り込まれていたので驚きました。踊りといつてもシトヤカに見せるのではなく、騒ぎながら一語に樂しむものなのです。

次の日、派遣団全員と沖繩スカウトとの大營火がありました。目を見張るような星空の下に、インテイアンの踊りか、歌か、スタンツが次々と出されました。

翌日、バスによる中部、南部の見学が行われました。皆さんもよく御存知の姫ユリの塔、使徒の塔等の聖を慰め、夜は沖繩舞踊の見学をしました。この日から、それぞれ、沖繩スカウトの家に分宿し

僕は安仁屋(アニヤ)さんというあるデパート会社の社長さんの家に友人二人とお話になりました。さすがは南国、バナナ、パイナップルがよく食卓に出されましたが、コココーラの出る回数、我々が水を飲むと同じ程、多かったです。

翌日は、米軍施設の見学が行われましたが、特筆する程ではないようです。

こうして六日間の日程を無事終え十一日、再び船で鹿児島への帰途につきました。この間、なれないドル札にこそとまどいました。自分では無中でやりました。トランプ残念な事は、嵐で船の出発が遅れた為、滞在期間の短くなった事です。まだまだ書きたい事はたくさんありますが、一応、ここを筆を置かせていただきます。

萬井潤子 — 十三頁参照

今田露江(旧姓田中) — レンジャー(後援副リーダー) (一九六二)。一九五七年夏、上級スカウト時代、ジュリエットローゼンションにてアメリカへ行き、その向、カナダにてベアデン、パウエル生誕百年を記念する世界キャンプに参加した。入団は一九五一年六月、お兄さんの田中ボーイスカウト団委員のスカウト時代、女のボーイスカウトに憧れての入団。志水久さんの下で副リーダー、同五九年上級の副リーダー。レンジャー(後援)を根本夫人の下で今年四月結成。

安積発也 — 年長隊副長(一九六〇)。一九五九年夏、フィリピンマニラで開かれた第十回世界ジャンボリーに小林隆、水下忠昭、加藤理夫、柳健一等と共に参加した。スカウト生活は永く、一九四九年(当時十才)入隊。吉祥寺の自宅から吾土旺日登南坂まで、指導者達「この少年、いつまで長持ちするかな」と思いつつも本人をあげるどころか、逆に、益々御熱心。あれよ、あれよという間に五年一九五四年に名誉スカウトに選ばれ、同五七年年長スカウト、五八年少年隊副長補。志水年少隊初代隊長につく音楽通。身体は小さいが全身フアイトの塊「秀才」という言葉があるが彼の為にあるようだ。今年三月国際キリスト教大学を卒業、日立製作所に入社。

日下部英一 — 年少隊副長補(一九六二)。一九六〇年夏、アメリカコロラドスプリングスで開催された、第五回アメリカ・ジュビリー・ジャンボリーに今年年長隊長と共に参加。四国のカブ育ちで、現在は、その古巣の副長補として、杉原隊長の下で活躍、将来の年少隊幹部指導者の有力候補。

吉田 進 — ボーイスカウト鹿班々長(一九六一)。一九六一年夏、日本ボーイスカウト沖縄親善文獻派遣団に、四国より只一人を参加。四国のカブからのスカウトで、今後の健闘が期待される。



おめでとう 四団!

ガールスカウト団委員長

志水

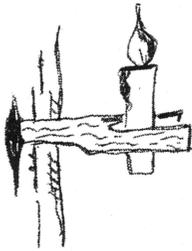
興

今年十五のお誕生を迎えたガールスカウトのみなさん、一寸考え
てみて下さい。ただ眠って、飲んで、泣いて、笑っていた時代、ヨ
クヨク歩きはじめたおデコをおつけたり、ひざ小僧をすりむいたり
して大さわざした頃、やがて独りごものを考え、自分直道をつつ
て力強い歩みをふみ出している今。

わが四団のこの十五年は、丁度ぞうしたひとりの少女の成長の記
録といつていいのです。何ですばらしいことでしょう。誇りと自
信をもってふりかえることのできる過去、その過去の土台の上に築
き上げられる未来。それは年とともに巾と深みを加えて更に美くし
さを増していくことでしょう。

「フラボー」四団！ おめでとう四団！

志水 興——ガールスカウト団委
員長(一九五九)。上級スカウト発
団と同時に初代リーダー。一九五
八年、日本連盟より発足以来十年
間の功勞に対し奉仕章を頂き、感
謝された。



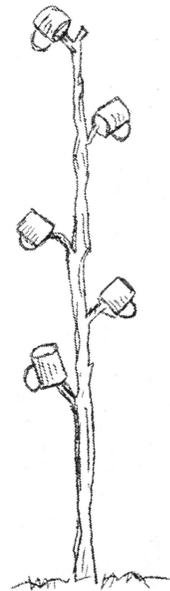
第四団創立十五周年を記念して

ガールスカウト

比企文子

私は今、このいぬめしい題で書くこととしている。しかし、私は三
三年前にひよっこり現れたようになつたから、四団の歴史も壺南坂
教会の歴史もたまたま古いぐらいいかかわらない。だから十五周年とす
と言われたってピンとこないが私が生れた年に、このガールスカウ
ト東京や四団が生れて私が大きくなつてきたように、四団も発展し
てきた、と考えると妙な親しみを感ずる。

しかし、こういう機会にあつてやはりこれまでの四団を、スカ
ウトとしての自分をふりかえつてみる必要があるのではないだろう
か。四団をいつもより良くしようと思つて通じて、はたして
一つにまじまつてやつてきただろうか。しかし自分のことになると
短い期間ではあるがスカウト精神からはなれた行動をしていた、ま
た、いることに気がつく。しかし、私もやはりガールスカウト東京
や四団の団員になつてゐる。そこで私もスカウトの道をえらんだか
らには、歴史輝く壺南坂にそびえ立つ鐘楼樹いぞすすもう」と改め
て思い直した。



初めてのキャンプ

ガールスカウト

長谷川 十恵子

大変よいボーイスカウトのおじ様が居らっしゃるからガールスカウトはボーイスカウトより劣るななどと、言われないようにカンパッと下さいと、リーダーにおどろかされて西那須に初めてキャンプに行っただのは、小学六年生の時だった。着いた日はよなな、二ヶ日目あたりから雨がザア／＼降り出し、とうとう最後の日は金曇するほどであつた。新米だし、変化があればあるほど楽しく何ものも、すてきに見えた。特に、放射能入りのカレーライスとドロップの話をよく覚えてゐる。どうせ雨が入るもの、洗つたつてしようがないと、サッサンとお野菜をよく洗わずにおなべに、雨水が入つてゐる(に)入れて、カレーライスを作つて食べてしまつた。その日の雨には放射能何カウントとか、でも、食べた物はあきらめて、菜外皆ケロリとしていた。これなどはまたいい方で、真白なおにぎりのそばを、隣りの組の人が知らずにはいたので、まるでゴマ塩をかけたようになつたのを食べたと言つた話を、塚田さんから聞いた。さつとカリカリなじつたのたろう。とにたくキャンプに行く心臓が強くなる。持参のお菓子は一回食べると、回集されるのが、ドロップの小さな缶まるまる出すのが惜しくて、いつか見つかると知りつつ、私の組はそれを出さなかつた。お昼寝した後、お腹がすく事

がある。私かグッスリ寐てる時、途中で目なさめを組長の目下部さん達が、お腹がすいたのでドロップを食べようよと、モゴモゴしてゐる折も折、見廻りに来たリーダーに見つかり、取りあげられてしまった。その次の日、おやつに同じドロップが出たので大笑い。夜中にお腹が痛いと言つて、リーダーを心配させた安保さんやらシラフのまま起きて寝かけた私やらまんやわんやだったか、こうゆうキャンプの方が後で考えみると大変楽しい、組長だった目下部さんも副リーダー、私も上級スカウトになるし、大分オバアさんになりました。

いつかのキャンプ

ガールスカウトリーダー

塚田 洋子

朝、六時四十五分上野着集合、リュックを背つたスカウト達が集まつて来る。私か副リーダーとしての始めてのキャンプでした。このキャンプは支部としても初めての合同キャンプで、東京の他団と交流が出来るようになっていました。ボーイスカウトの那須野営場で、小羊の皮に何か書かれていたり、しいたけの栽培所があったり、大きな營火用の場所もいくつかあって楽しいキャンプ場でした。そこには、テントと呼ばれる古田さんという方がいて私達を

何かと指導してくださいました。デングラーは先輩で着いた私達を小さな室に案内し、ギマンズのあり方、その他について話をし、休む間もなく、資材をギマンズ。地まを運んでくたさいました。副リーダーとして行った私は、矢つぎ早に色々と聞かれ、答につまりながら必死になった事を覚えてます。

次の日、昏が来て、テントを張り終ったとたんにはバラバラと雨が降って来る始末、そして最後の日まで雨に降られ通りました。けれどスカウト達は文句も言わず、一生懸命活動を続けたのです。大きなフライテントの中で工作をしたり、涙をポロポロ流しながらご飯をたいたり、テントに雨もりかするの新聞紙をはってみたり、あらゆる工夫をしてみましたが、結局考えた本に合意という事になりました。室の中で集中電気をともしてのギマンズ。ファイアー、スカウトをなければ、できない戸外での生活訓練です。ザアーとようしやなく降る雨の中で、ほほに伝わる涙と雨でくしゃくしゃになりながらする作業は、副リーダーとしての責任をチヨッピリ感じ、大きな苦しみの一つでした。けれど今ではそれがとても楽しかった思い出として残っているのですから不思議です。

そしてこのギマンズは頂度十周年記念が行われた年だったのです。それから五年も過ぎ去り、当時のリーダーは、現在、今田夫人としてマシテイル喜江ちゃん、その時は喜江ちゃんの奥様姿なんて想像も出来ませんでした。十五周年にあたって、一番苦労した那須ギマンズが一番有意義だった事を思い出している次第です。

これから何人か四団のガールスカウトが次の年に向けてはげみ、奮っていくことでしょう。ここに十五周年を迎えるに当たって心から嬉しく思っております。

十五周年

ガールスカウト

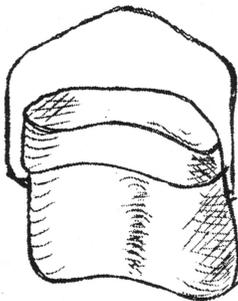
西 山 友 紀 子

私がまだ生れたてで、よちよち生れていたころ、この四団のボーイスカウト、ガールスカウトが成立したのだなと思ったり、おい分古いのだ、と少しおぼろいでいます。

それに十五年間、雨の日も風の日も人々の馬につくし、私もこの団に入団して名譽のように思えてならないのです。私かこの団に入ってもう四年になります。十五年と四年、それはさうとうかけはなれています。

私達この四団もこれから百周年、柯百周年と、人々につくし、いっつも、そなえよ、つねに、この言葉をわすれないで、東京や四団のはじめにならないような立派な人格者になるように、そして名譽あるこの四団につとめましょう。

塚田洋子「ガールスカウトや
代目リーダー(一九六一)」。大男
身に知恵が廻りぬね。逆又真なり。
小さくともピリッとするのが特徴。
まだまだ紹介すること、沢山ある
が去る五月三日が結婚式はぬ。



十五周年おめでとうございます

ガールスカウト

乗 畑 真理子

十五周年、口ではスラッと言えても、その間には私達には考えることの出来ない苦労があった事と思います。それが今日まで十五年という輝やかなしい年月を送って来ました。どの団にも、まげないような立派なスカウト達が築立ち、新しくスカウトになったものを一生懸命リードして下さいました。それを何度もうくりかえされた事と思います。私が入団して約二年になりますが、その間にも、四月には入団式、募立式、夏には楽しいキャンプをし、日頃の訓練をいなり、まがりなりにも、みんなと助け合って過ごして来ました。十一月の合同クリスマス、キヤンドルサーヴィスの雰囲気か忘れられません。それぞれ毎年同じようでもどこか変わった形で、おもしろく、また、楽しく過ごして来ました。毎週一度、土曜日の集会に出掛ける時は、自然に心がウキウキしてきます。雨にも負けず、風にも負けず、かよい荒けました。これからもみんなとかけり手を組み、ともに楽しみ、ともに苦しい事にものりこえて、今までもよりいっそうよい団になるよう励みたいと思います。

ガールスカウトの思い出

ガールスカウト

川 真理子

私口、フラウニー経験四年を経て、ガールスカウトに、フライアッフルしてもう一年になりました。初めて集会をした時、全体がフラウニーの頃とちがうなと思いました。でも、おかげで今までもわがななつた縄結びや料理の作り方を覚え、その上、救急法講習会に参加し、大変役立つ事を教えてもらいました。

この一年間、一番楽しく印象に残ったのは、夏季キャンプの時の事です。私は、フラウニーの時よりテントでのキャンプ。生活を望んでいきました。最初、リュックサックの上に乗せたスリーピングバッグがとても重たく感じましたが、訓練を重ねていく中に、すっかり慣れ平気になりました。三月三十日、伊東へ行なわれた東京都支部キャンプに参加し、良い経験をしました。おきて「四」にもある通り、「ガールスカウトは他のガールスカウトとも、互いに姉妹であります」ということがよくわかりました。

私は、これからも集会を休まず、立派なガールスカウトになりたいと思っております。



ガールスカウト十五周年によせて

ガールスカウト

田 中 万 里 子

私がスカウトにはいったのは、小学校の二年生の終りごろだったと思います。ブラウニーの入団式の時、「体をひねってぐるりとまわるから、私にこびとを見せてね。水の中をのぞいてみたら私が見えました」と言っていて、鏡の池に顔をうつしてリーダーの所へ行く時、ピンをつけて、鳴子をかぶせてくれました。そして二本の指で敬礼をする時、「私はぎょうからブラウニー」と思っていてもうれしかったのをおぼえています。それから初瀬のキャンプへ行ったり西那須のキャンプでは小さな雨がえるをたくさんつかまえてよろこんだり、ブラウニーって楽しいなと思えました。そんな事をしていくうちに、単立式になり、私もいよいよガールスカウトになることになりました。ガールスカウトのタイヒピンをつけてもらうと、私もうとうとうガールスカウトになれたなと思うれしく思うと同時に、何だかこわいような気持ちになって、またブラウニーにもどりたいような気持ちになりました。ガールスカウトになると、キャンプでも寝る所はテントだし、食事は自分達でつくると、ブラウニーとたいがいちがうので、ちよっとびっくりにまりました。それでも、足尾、鷹沢山、羽村と行くうちに慣れて、去年は全国キャンプに行く程になりました。スカウト全部のバスピクニックでも、はじめのうちは、ブラウ

ニーより一段上のお姉様という感じで、少しおかしな気持ちもしました。それからクリスマス会の祝会や四団の誕生日の祝会も楽しい行争です。その誕生日も今年で十五回目を目をむかえようとしています。私も今年十五才になります。ですからガールスカウト四団とともに育つていきたいと思えます。

ガールスカウトのキャンプ

ガールスカウト

鈴 水 房 子

ガールスカウトに入ってから、もう、約一年になります。その中でも、一ばん楽しかったのは、羽村のキャンプです。バスからおりて、リックをしよった時は、そんなに重くはなかったけれど、だんだん歩いていくと、リックの重さが、かたに重い感じがした。でも私達四団のキャンプする場所は、もう目の前に見えていたので、その重さもわすれてしまいました。一番最初にやった仕事は、テントをはることです。場所は、私達で決めました。初めての仕事なので、むねがわくわくしてとてもうれしかったです。

その日の夜は、みんな、なみなみねないで、三十分ぐらいおしゃべりをして、いつのまにか静かになった。目のさめた時は、もう外が明るくなって、とまりの犬養さんもおきていました。二人でテントのはじめら顔を出したら、みんなやりとした空気なので、とても気持ちがよかったです。そして、船長さんが、「だめよ、まだ早い

んだから、しずかにね」といったので、ねどこに入った。

ふえかなり、みんないっせいに洋服に着かえた。順に顔をあらひ齒をみがいて、食事の用意をした。それから朝の食糧をうけて、一日の生活を始まった。

少しこまった時もあったけど、多摩川の上流を遊んだ時は、一番おもしろかった。三治四日も、ゆめのようすぎ、帰る日がまじりた。

長いことお風呂に入らなかつたので、あかだけになつてしまいました。家に着いたら、母が「思くなつたね」といい、すぐお風呂をわかしてくれました。

弥栄 東京第四団

ガールスカウト ボーイスカウト

青年隊 上級班長

小 村

隆

この記念誌が発行される頃、我々の青年隊とレンジャーが発足しているでしょう。これでカフ隊からローバー隊迄、ブラウニーからレンジャー迄と全部揃つたわけです。日本全国でも八個隊揃つてゐる団は少ないと思います。まして数少ないチマーチスカウト団であると言ふ事を加味すると最高の団であると思います。

これから私達が進む道は、この組織を利用して興味本意で入隊したスカウトが、成長するとともに知らず知らずの内に本當の意味のスカウトになり、後に続くスカウトを育てることにあると思ひます。

では、今度発定する青年隊について少し説明致します。

構成メンバーはいわゆるジュニマリーター、セリと考えて頂き、単に各人が年少、少年、年長隊にリリーターとして奉仕するのでは、物足りないのので一堂に集り個人のプログラムを行ないながら、全体的に奉隊奉仕、対外奉仕、社交活動、自己訓練を行うものであります。それ故、今まで面談談話連絡をとつていただけでなく、隊員間のつながりによつて各隊長を助け活動することです。

今迄ですと、例えば少年隊で隊キヤンプを行なう場合、先発及び隊付に年長スカウトが奉仕してました。その爲に夏期に入ると年長隊のプログラムに混乱を起しました。又少年隊の方でも単なる年長隊員が来る爲に不安な点があつたわけです。これからは青年隊員が自己のプログラムの内として奉仕致します。それ故、同時に少年隊と年長隊が別の所でキヤンプをすることも可能ですし、受入れる方も安心してまかせられる訳です。

又、レンジャーも同様な意向です。この両者が協力しあえば八個隊全体の協調と相互援助が可能となり、プログラムがスムーズに実行されて行くわけです。これからは各隊とも、心ん心ん我々ローバー隊員を利用して、より活発に活動して下さい。その爲にも我々隊員は個人を鍛えて、又技能を磨いてどんな奉仕でも責任をもつて引受けられるよう、日當の訓練をいたします。発隊以来最初の奉仕は、この記念誌の編集、式典の奉仕、バスピクニックの計画実施と、早くも三つの重要な仕事に奉仕して居ります。

しかしながら活動の活発になるにつれて資金面に苦心して居ります。皆様の青年隊に対する御理解と御協力をお願ひ致します。

想い出

年長隊、青年隊長

分 田 富士雄

昭和二十二年二月二十二日、千石二時、愛南坂教会の二階の客室で、二個班から成る、東京第四隊が生まれました。

母親の鑑長、ペーデンパウエル卿も、この日の丁度九十年前に、この誕生になり、同じく四十年前にスカウティングをはじめられました。

四隊創立当時、まだ中学二年生だった我々も、十五周年を迎えてもう三十才になり、人生の丁度半分をスカウティングに費やされました。

さました。その頃の仲間で、現任直接スカウトに關係しているのは、飯田少年隊長、荒垣、遠山両委員と私くらいで、他の仲間達は立派な社会人として、それぞれ分野で活躍しております。

私も十五周年誌発行にあたり、「十五年のあゆみ」を編集しましたが、発隊当時のことは今でも眼をとじると、昨日のこのように想い出がとびだしてきます。

昭和二十二年五月十七日、神宮外苑、今のホーリング場の処の燒けあとして、東京五個隊、横浜一個隊のスカウト百数十名が集まり、皇太子殿下、ハイニンク夫人、アメリカ、ホーイスタウンの故フナガン神父をお迎えして、戦後第一回のラリーを行いました。

当時は敗戦直後でマッカーサー司令官の権力が絶対であり、組織団体は非常に危険視されていましたので、ホーイスタウトも、モテ

ル隊を作つて様子を見てから許可をしよう、という実情でした。四隊は他の隊の歌やスタンツの中にあつて、火起し、なわ結びのスカウト技能に、実力を大いに發揮し参加者の目を眩はせました。同年八月の引田キマンスは、五隊と合同を行いました。四隊は三月も前から盃一ぱいづつの米を集めて、当時貴重で米食主義。五隊は当時配給のトウモロコシ粉が主食。班長会議の向題として取上げ少し分けることにした事。

二十三年三月、最初の全夜ハイクを修繕寺、伊東岡へ行い、取に若く三十分程前にハイクマスタートを命じられた事。伊東の海岸で、海水で米をといてそのまま、炊いた班があつた事。罪々、すべま樂しい想い出になりました。

私の今日あるのは、今井隊長と初め歴代隊長のおかけと深く感謝し、併せてスカウティングの殊榮を祈り筆を置きます。

今田富士雄	—— 年長隊々長(一九五〇)	飯田貞雄	—— 少年隊々長(一九五九)
九〇青年隊々長(一九六二)	共に初	一	発隊後まもなく入隊、隊書記
代。発隊と同時に入隊、初代白象		から副長を八年。現任、小地区コ	
班々長、初代上級班長、四代目少		ミツシヨナー、山手地区コミッシ	
年隊々長(一九五三—一九五九)、山手地		ヨナー、日本連盟歌集委員。教育	
区進歩委員長、「スカウト」スカウ		者である為特に、青少年の成長に	
ティング編集委員、東京和理盟副コ		関心強く、人一倍熱心。今田隊長	
ミツシヨナー、日本連盟進歩委員		と良いコンビ。末年ギリシマのマ	
一九五八年四月、人命救助章を受		ラン中で聞かれるが十一回世界シ	
ける。スカウティングの鳥に生れて		ヤンホーリーに参加予定。一九六〇	
来た人。現任、ライオン歯磨勤務。		年結婚。大塚養護学校教師。	

ジープに乗れなかったけれど

少年隊隊長

飯田貞雄

昭和二十二年のある日のことである。中学二年生だったぼくは、放課後野球の練習を外苑の榮っば(現在のラグビー場付近)でやっているとき、道をへだてた芝生でホイイスカウトのネー一回ラリー(もう一人あとでこの行軍の名は知っば)が聞かれてるのを知った。

やじ馬更分ぞ近くにいつてみると、青と黄のネツカチーフをした少年たちの中に同級生である志水君(初代カチーフ隊長)を見つけた。

その翌日、休み時間に志水君からスカウトに入ることをすすめられた。しかも、彼は「四隊には外人もいて英語も教えてくれるし、ジープの運転だって習うことができるんだ。」と得意気に話してくれたのである。当時、自動車狂だったぼくは、英語の方はとにかくとして、ジープのはなしにすっかり魅せられてしまった。

ぼくは、こんなキツカゲと動機でスカウトになった。

x x x x

それならというもの土曜日にくるのか持ちどおしかった。スカウトのことを夢中で勉強して一応準備もできた。新しい友だちに仲間入りかでき、ハイクやキマンズにも参加して、楽しいスカウト生活を送った。

しかし、気がかりのことかひびつあった。……ジープのことであ

る。運転はふるふ、ジープの姿すら見ることもできないのである。しばらくしてわかったことであつたが、どうやら持ち主のウイリヤムス氏は、ジープを乗用車のシボレーにのりかえましてらした。結局、夢にまでみたジープ運転は残念ながらできなかったわけである。

x x x

あれから十五年たった今、ジープの思い出にひたりながら、ふとこんなことを覚える。

ぼくは、すばらしいのりものに束縛されている。その名は「スカウティング」。乗りたい少年は誰でものせて、交通規則の「おきて」を守りつつ、スカウトの道をカブよく、たくましく走り続けている車だ。

この乗りものは、ぼくの少年時代に与えられた贈りものであつたことを感謝しながら。

熊班の案内

少年隊 熊班 班長

加藤 正 夫

熊班はもう十年位、続いているそうです。その頃の熊班といつても僕らは全然知りません。たに名前だけがあつたのみもしれませんが、又は熊班という名の様に熊の体に似て強く暮らつていたのであ

もしれません。

とにかく今日まで熊班が続いたことは大変すばらしいことです。今の熊班は総員十名、一人やめてしまいましたか十名で力をあわせて一生懸命にやっています。

班長の加藤はボーイスカウト経験四年、次長の恵良は二年、班員の豊田は四年、以下平井、井上、渋谷、針齋、高田、青島、河辺は各一年、だれもがボーイスカウトとしての経験を一応充分持っています。日の輪から上進した純情な三人組は熊班に入ってから来た時、おどろくほどおとなしかったので、これは將來使えるなと思いましたが、しかりニケ目、ミケ目と班員とも気が合う様になってくると本性をあらわして班内をあらしまわりました。入りたてはどこのからか借りてきた櫂のようでしたが、次第にその逆になり、何々用事を云いつけると何人でも反対していました。これではとてもこの班はまともではないと思いました。

しかし時がたつにつれて急に班内がまとまりだしました。僕には何故か分かりません。たぶん僕が大きくなって隊長になつたら分るでしょう。



思ひ出深いスカウト生活四年半

少年隊 後班 班長

吉 田

進

今年で四回十五周年を迎えたわけだけれども、僕は少年隊に入ってから三年半、年少スカウトを約一年、合計四年半やってきた。けなもので、十五周年の褒章を書けと云われても困ってしまふ。

とにかく、四回の正史というより、僕がこの四年半、どうスカウト生活を送つて来たかを振り返つてみたいと思ふ。

僕はカブには、途中から入った。僕の食はずぎらいをなくす為にかぶに入れたそうだが、それにしても、この向よくもこんなに大きくなつたものだ、ひどすぎる。とにかく僕は内藤君の組に入った。当時はまだ小さかったし純情だったから夢中になつてカブを遊んだ。

一年たったら急に少年隊に上進した。石矢君の率いるワシ班に、恐る恐る入った時、望月君や戸倉君がいたのをよく憶えている。

平班員の僕は、失敗ばかりやらかりした。思う向もなく、黒ヒヨウ班にかわつた。班長平木君、次長寿山君の班だったけれども、寿山君はとても親切なスカウトで、今の僕もあやかりたい。この年や二回日本シヤンボリー、バイク兄弟はいい友達だった。

次に入つたのが後班、班長望月君、次長万石君だった。この時の隊キヤンプの成績はまったくひどかった。そんな事も風の様に走りさり二代目後班が出来た。こゝで僕はアメリカでスカウト

の経験を持つ中村君を班長に迎えた。彼はいつものにこにこしていて、気持ちよい。この時、僕は次長として初めてグリーンバーの仲間入りをした。それから半年、彼が受験勉強の爲に休職したのを機に、僕が班長になり、沢田君が次長になった。

班長、この責任ある役に慣れてきた頃、僕は日本連盟派遣団の一員として沖繩に向った。これが去年の夏、九月に三代自派班が出来、引続き班長の仕事をし、次長に岩永君を迎えた。そして現任に至っているわけだけれども、この四年半の間、色々な人と同じ飯盆の飯を喰い、又別れた。そして今度は僕が班長隊へと集立つのである。

そう思うとチヨッピりさびしいけれど、とにかく、この長いスカウト生活を通して、「先づやってみることに」だけはよく分った。何だかおじいさんが昔をなつかしんで書いた文みたいになっだけれども、まだ先は長いから、あしからず。

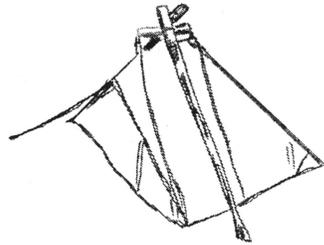
十五周年にあたって

考える事

上級スカウト

堀越 紀代子

私は、入団するまで、カールスカウトの実際の活動について、何



一つ知らなかった。現在考えてみて、カールスカウトの一員に加わる事が出来た事を大変感謝している。何故なら入団するまでの私は自分自身の幸福だけを考えたのであった。しかし、奉仕するという事により、自分自身の精神的成長を助けると共に、それによつての満足感を、味わう事が出来る様になった。自分の幸福を考えると、争は、人間社会に於て当然の事であるが、これを奉仕という事に当てはめると、私達が、自分の生涯の目的を、かなえてくれる人々に対し、奉仕する事は当り前のことである。しかし、何の報酬も期待せず、全く未知の人々に奉仕する事になると、よほど人間的に成熟した人でなければ、なかなか理屈通りにはいかない。けれどカールスカウトに通う事により、何も出来ない私に少しであるが、しれないが、ヒューマニズムが身についた様に思われる。又複雑な社会を渡って行く爲には、自分の求めているものをほつさりさせる事は出来ない。私達が心から希望しているただ一つの事は、人類の平和、そして世界の連結した平和である。平和を求める爲に一番大切な事は、対人関係にあると私は考える。私達は今迄学校という一定のわく内だけの対人関係であったが、これでは限られた範囲だけの知識や教養でしかあり得ない。カールスカウトに入団する事によつて私と同じ世代の人達との意見の交換、また、一錯に遊人になり、自然の見識を広められる事、この様な考えを次の世代から次の世代へと受け継がれる事は、世界平和の道にもつながり、また、カールスカウトの精神にもつながると思う。これまでも先輩弟兄の方達が立派に育成したこの四団を、より以上に発展させるのが、私達に課せられた務めである。小さな方ではあるが、カールスカウト発展の爲に少しでもお役に立てればと思つている。

印象深かったこと

上級スカウト

西 田 久 夫

私がG・Sに入団したのは、今から四年前、ちよつとロベーターン・ボウエル卿の御誕生日に、五、六人の人達が、新しくスカウトになったと覚えています。そして私達も、仮入団のための縄結びとか、スカウトについていろいろな事を教えて下さったのは、今はアメリカにいらつしやる大田直美さんでした。

この四年間のスカウト生活の間に私は、スカウトではなくてはでないような多くの事に接する機会が与えられ、本当に良かったと感じています。例えば、戸隠の全国大会や、奉仕など……。でし、その中で最も印象深かったのは、皆で編んだ「毛糸の毛布や、お菓子など」を持って、救世軍経営の孤児院を訪問した時の事です。私は「子のせいぬ、小さい子供達とどういふふうに遊ぶべよいかもわからず、その訪問に気がすまなかったのですが、まあ皆にむらつてどうにかしようと思つて、皆と一緒に訪ねました。

ゲームや童謡を歌っているうちに、始めは人見知りしていた子供もまじつて、はてはかくれんぼ、ボール投げまではじめました。こうして遊んでいる時、今まで想像していたどこかに、ひねた淋しさのある孤児というものを、否定せすにはいられませんでした。帰りかけ私達は、G・S歌集にある「さよなら、皆様」を歌つて、別

れを告げると、「どうもありがどう」とか、「また来てね」といながら、皆伸びして、窓から「神共にいまして行く道を守り……」と、まだ口もよくまわらないような小さな女の子まで大きな口を開けて、いつまでもいつまでも、私達を見送ってくれました。帰り道に、両親もいないのに、明るくて、純真な女の子の笑顔にくらべて、思われすぎて、感謝の気持や信仰を忘れて生活している私の愚かさに、深く反省させられました。今でもふとした時に、あの「神共に在ま……」という可愛い声と、明るい頬を思い出します。

考えること……

上級スカウトリーダー

魚 部 收 子

私が中学二年の夏にもわからぬまま入団してから、もう今年で満十二年を迎えようとしている。今、当団の十五年を記念するにあつて、改めて長い十五年の歴史の流れをふりかえつてみる時、あ私もその一端の一人であったのだと誇りというか、嬉しさというかなんとも云い難いものを味わうのである。それと同時に、何か恥にも似た反省を感じずにはいられない。と云うのも立派なリーダー群に育てられたが、立派に育たなかった私が、未熟ながら一十年前からリーダーとなりこの蓄積された土台の上を無意識に歩んで来た

ことである。私がまだスカウトであった当時、四圍の評判は、すばらしいものであった。歌がうまいし、しゃべりたスカウトが多いと一目も二目もおかれていたのであった。それもそのはず、世界キヤンプの日本代表を二人も出した四圍。あまりにも身近かに、あまりにも内に入りすぎて、横れすぎていた私はこのことに気がおかし、今日に至ったような気がする。今、去年のリーダー研修会で耳にした「古い四圍だからといって必ずしも良いとはいえない」という意味の言葉が強く思い出され胸が痛くなる。一般論から云えば、確かとも考えられることであるが、「古い四圍はやっぱり良い」という一般論にするよう努力しなければならぬと思ふ。又現任の私連リーダーに課せられた義務だと思ふのである。と同時に義務づけるのは私一人だけだろうか。私の小さな力では一歩も二歩も後退するに「ろうか」、一歩後退することには二歩の前進を心掛けてこの果き上げられた十五年の上を歩んでいきたいと思ふ。



恩師牧子——上級スカウトオオ三代目リーダー(一九六一)。翌年後まもなく入団。ガールスカウト副リーダーを経て現在へ。妹さん二人が上級スカウト、レンジャー(夜練)の団員。東京都支部リーダー、スワラ部長、日本連盟プログラムの委員。今回の編集委員でもある。

スカウトと私

上級スカウト
田中恵子

小学校四年生の春頃、スカウト運動というものが、どんな運動であるか、また何をやるのかさっぱりわからなかつたけれど、キッコ先生に勧められるままに、ブラウニーオ一回の集会に出でみた。五人しか集まらなかつたのが記憶に残っている。けれどもやさしいお姉様たちから「ブラウニーとはかくれて良い事をやる小人の争いのよ」と教えてくれた。あの「トミーとベティ」のお話を聞いて何かを感じた事は確かだ。それからは良い事をやるのが楽しみになり、また、それをブラウニーへ行つて話すのも、楽しみの一つになった。そしてその年のクリスマス「体をひねってぐるりとまわるから私に小人を見せてね。水の中をのぞいてみたら……」。と一人一人が池の中に「ブラウニー」を見つけ、十数人が入団して、あのえび茶のスカートをはけるようになった。その時、G・Sのお姉様たちが、とも市で一人一人に、ブラウニーのバッヂの刺繍してある帽子を、

作って下さったのもすごく印象に残っている。(この頃は、まだ制帽が出まていなかったのだ。)こんなわけを何もわからないうちに、スカウトとなってから八年近くはとうとうしてはいるが、やっぱりそこには何かの収穫があったことを知り感謝している。数々の教えられた事や自分の経験をかえりみる時、人より色々な事をより沢山知っていると思うと、そして、またそれを活かして人の役に立つと思つと、とても楽しいし、また、生き甲斐を感じる。救急法や箱結び、その他すべての事も知識として覚えてはいるけれども、いつてもどこでも、実行に移せる準備が大切だと思つ。ユニホームを着ている時のみのスカウトではなく、いつてもどこでも、神と人との善いばれる良いスカウトになりたいと願つてゐる。最後に、何も知らない何も出来ない私でしたが、ここまゝ導いて下さつたリーダーその他の方々の御努力を心から感謝致します。

上級スカウトの団員となつて

上級スカウト

大 石 みち子

私は十一月二十五日、上級スカウトの団員となるための入団式を受けた。私の他にもう一人、二人で一緒に約束、おぎてをとなえ、ピントタイをもらった。私が、この豊南坂教会で集会がもたれる上級スカウトに入る事になったのはこうである、友達かスカウトの団員であることを知り、興味をもつた。ガールスカウトに対しての知識としては、まだ奉仕をしてゐる集まりということだけであつた、この

ような所に入つてゐる人は皆、立派な人達に違ひないと思つて母に相談した。母は多くのよい友達を持つことが出来るでしようからと許してくれた。そして十月の初め、友達につれられて、豊南坂教会にいった。そしてそこで皆がほづからかであり、親切であることを感じた。五、六回集会に出席するうちに、これからのスカウトでの生活がとてわたのしく、有効なものであることを知つた。「私はこれまでのガールスカウトに対する知識よりも、もっとガールスカウトにきよ深いのがあり、私にとつても勉強になるものである。そしてたんなる奉仕だけではなく、もっと広くすべての人々を助け友達となるところに目的がある」。これらのことを教えられた。五、六回の集会に出席する間に、私は入団するのに必要な約束、おぎて、また、箱結び等を勉強した。また、二級、一級のスカウトになるために色々な分野での勉強をしなければならないことを聞かされ、それらのことをやつて、より多くの知識を持つことによつて、人を助ける力を持つことが出来るのであると思つた。入団して三ヶ月半たった今、私は二級になるための勉強をしている。学校の勉強と両方で大変だが、しかし学校で教わる以外のことを身につけることを考へてか人はつてゐる。四月で、心身を新しくする時にあつて、上級スカウトの中でも、活動し、立派なスカウトとなり、人を助け、友達となることのできるようにと、この一年で、自分かどれだけかをもちつてかかできるかをためてみたいと思つてゐる。



魚のネツカチーフ

年少隊長

杉原

正

日本教育テレビの「春休み子供音楽会」に四国と共に出演するた
め丘田ヶ谷にある一三三団のお友達が沢山やってきました。テレビ局の
製作者の方々を前にして、楽しくも、元気に、カブソンかや、動作
の入った歌を紹介した。久しぶりの交歓でカブ諸君に比べては、よ
い判戦となった様である。スカウト同志の話し合いやデンマザーの
報告に、それがあらわれている。同じ様に一三三団のカブ諸君にと
っても四国のことがよくなるらしく、一三三団のデンマザーが帰
りかけにこんなことを云った。『うちのカブが、僕達は、クマのネッ
カチーフをしているのに、四国のカブは、なぜ、魚のネツカチーフ
をしているのか質問を受けたんです。どんな意味なのでしょう。これ
に対して私は、私の知り得る範囲で、キリスト教福音時代のキリス
ト教徒者の秘密のしるし、キリスト……、意味しているのだから、こ
簡単に説明してあげた。次の機会にカブにわかりやすくお話ししま
しようと言う約束をしてお別れした。カブがこのネツカチーフをつ
け始めてから三年になり、今は、年少隊長、正隊長のスカウト諸君も
つけている。少くなくとも無意識にこれをつけ、集会に集ってきま
るのである。この説明をした後、十五年前この聖南坂教会に、ス
カウトが誕生した意味を思いながら、又、チマーズスカウトと称せ

られている四国が、このことをよく覚えてスカウティングに励んで
きたのだろうかと思つた。十五年は長い様で短い。しかし、十五年間
永続して団が育つてきたことは大変なことであり肉縁された方々の
努力の偉大さと筋力の賜物であると感している。十五年をただお祝
いするのではなく、私達の団が、隊が、他の団、隊と異った特徴を
備えていることを、それはネツカチーフが違つたというだけでなく、
この際、全体で、このネツカチーフをつけるのにふさわしい、スカ
ウト、隊、団として育つてゆく様、お互に努力すべきではないだろ
うか、それがこの十五年を迎える四、隊、スカウトとしてのつとめ
るはなないだろうか。

いつでも私はスカウト

小崎 忠 雄

四国の記念すべき十五周年を心から感謝し現在ある事を喜ぶ者
一人です。私は諸君ならみれば勝手かもしれませんが、今もスカウ
トだと思つています。記念誌発行にあたり初期の隊員の一人として
一筆書く様依頼されましたので喜んで、思い出と理想のスカウトに
ついて書く事にしました。

現在四国にいる諸君は、戦争に負けた当時の日本、その後の若し
かつた事は知らないでしょうが、私達現在の隊長達はやはり同じ仲
間でした。少年時代をその中を過ごしました。その頃は、テレビも

そのほか卓しむものは何人にもない時で、食べる物も充分ありませんでした。そんな時に、戦争中作られた少年団とは別に、戦前のスカウト運動が復活し、東京で四番目に隊を養成したので、現在の四団のはじまりです。

毎週土曜日の千原の集会はとても楽しく持ち運しいものでした。

でも今の諸君が見たら笑う様なかっこうでしょう。二等兵の軍服を子供用にしたら様なカーキ色の学生服に、戦斗帽の学生帽をかぶり、栄養が乏しかったので体も小さい少年。その手には、戦争中空襲で火事となった家をとりこわす道具、とびくらの棒をガラスのかけらで丸くけり、先の金兵をとりはずして作った団杖を持ち、服にはふるしぎの様なネッカチーフ當時今井隊長がアメリカから送って頂いたもので良い布だと自慢のものでした。隊番号、班別章、それは一番初め布に墨で書きましたが、友にはペンテックスで書いたものをつけ、手旗、モールス、ナフ鉛ひ、湯わかし競争、追跡サイン、団旗、救急法、キヤンプ、ハイキングに、それぞれに楽しんで思い出です。

自慢ではありませんか、恐らく今の諸君の様に小遣袋をあまり持っていないかもしれませんし、買いたくても品物がなかつた時代なので、何人でも自分で作らねばなりません。班旗もベルトもテントもリックサックも作りました。学校の先生や、家庭では教えてもらえないものを樂しみながら身につけました。この事は久えりみて感謝です。

次に理想のスカウトについて諸君と共に考えてみたいと思います。利口な人は考えなくてもちがひ、おきては守る事だと思つてほしい。こうで一寸、古に沢山いる隊長さんの印象を申しますと、

一、スマート。二、何んでも良く知つてゐる。三、行動的で元気が良い。四、少々礼儀が欠ける。勿論礼儀正しい隊長も沢山いるでしょう。さて諸君はスカウトになる時、スカウトサインをしてもらいたてますが、誰れに誓つてゐるのでしょうか。隊長にですか、お父さん、お母さんにですか、友達にですか、いや自分にですか、同時に忘れてはならない大事な事は、ペーテンパウエルはちがひを神への祈りとして誓いたものだと思はれます。ですから神様への誓いでなければ、本当のスカウトのちがひはありません。

理想のスカウトとは神様へのちがひを守る精努力する人だと思つます。

以上二つの事を書きましたが、楽しいスカウトイングを通して充分心身を養はれます様祈りつつ筆をおきます。

杉原 正一 年少隊長、二代目隊長 (一九五五)。発隊まもなく入隊し、志水初代隊長のあとを受け年少隊長を今年で七年。このカブに關しては三人前位。スカウトイングの話になる目つきが変る程、熱心な指導者。今田、飯田両先輩が舌まく程カブに打ちこんでゐる。山手地区副コミッシヨナー。非常に几張面ぶ濃辯家。ガラに似合はず日本趣味。彼に關する話趣は豊富。国際キリスト教大学勤務。

小崎忠雄——前ボーイスカウト副団委員長(一九五七、六〇)。発隊当時よりのスカウト。初代兼班々長、副長を務めた後退団。O・Bとして協力。一九五七年新制度により団組織に改組、初代副団委員長となる。大学卒業後、社会事業へ進まれ、廣徳實社会館を経て、伊勢湾台風の後、名古屋キリスト教社会館を建設し、現在館長の要職にある。一九六〇年結婚。お父様は、当教会名譽牧師小崎道雄先生。

編集後記

「正史は、現在と過去との対話である」。(E.H.カー)
 四週十五年の輝かしい過去は、過ぎ去ったものとしておく、現在、私達かここにあるという意味において問題になるのである。逆に、現在ここにあり、預立したものではなく、過去との関係を通じて問題になるのである。それ等を充分理解することになれば、過去を思い、現在から未来へと語るこゝがあつても無意味なのである。

この記念誌により、単に十五年前へと我々の記憶をもどすだけでなく、過去をみつめながら、現在が未来へと如何に進むべきかを考え、計画し、行動しなければならぬと思ふのである。四週の後一層の發展を切望するものとして、一筆添えさせていただきます。

二月十日の同会議において十五周年記念誌発行を決定し、ガールスカウト側から菅野秀美・松井靖枝・黒部牧子、ボーイスカウト側から木下忍昭・遠山兼宏の五人が選ばれ、記念行事のなほでも重要な、意義ある仕事にあたりました。不なれは、途中で何度か挫折しそうになつたにもかかわらず、そのむづかしい仕事を二ヶ月半という短期間に完成させたことは、各人の大いなる努力と、それに加える編集者という誇りと、自信でした。

発行に際し、我々の計画にいろいろと御助力下さつた記念行の責任者、杉原正兄、十五年史という大変な仕事を急しい勤務の合間をみて作りあげて下さつた、今田スカウト夫妻の御協力、おまさまな原稿のお願いに快く引き受け、寄稿して下さい下さつた方々には心から感謝し、御面倒をかけた恩師さんをはじめ、筆耕・印刷の方々に深く感謝し、厚く御礼申し上げます。

遠山 兼宏

創立十五周年記念誌

昭和三十七年五月二十日発行 (非売品)

編集者

ボーイスカウト東京才四団
 ガールスカウト東京才四団
 十五周年記念誌編集委員会

印刷所 昭文堂印刷株式会社

東京都港区愛宕町二ノ十二

電話(43)一〇〇五

発行所

ボーイスカウト東京才四団
 ガールスカウト東京才四団

東京都港区赤坂豊南坂十四

日本基督教団 亞南坂教会内

電話(43)〇四〇三

第四団年表 (十五年史)

昭和(西暦) 年月日	ボーイスカウト			ガールスカウト			で　　さ　　ご　　と
	団	少年 少	年 長	ブ ラ ウ ー	ガ ー ル ス カ ウ ト	上 級 カ ウ ト	
昭和22年 (1947)							
2月16日			○				教会伝導集会後に今井ウリアムス氏 紹介される
2. 22			○				B.S. 東京オ4 隊発足. 今井隊長. ワシ班. ライオン班
3. 15			○				西桜小学校グループと合併. 遠山, 石田, 青木.
5. 17			○				オノ回ラリー 神宮外苑. 東京オ4 隊, 横浜24 隊 皇太子殿下, フラナガン神父, 出席される。
6. 11					○		オノ回 集会, ミス・バスケット. ウリアムス氏出席. リーダー 小崎朝子
6							
6. 28			○				3ヶ班になる. ワシ志水班長, ライオン荒垣班長, トラ小崎班長
7. 26			○				5 隊と合同ハイク..... 金沢 八 買
8.13~16			○				5 隊と共同キャンプ..... 武蔵引田
8. 27					○		ハイキング"..... 奥多摩
12. 20			○				スカウト クリスマス 塔
12. 26					○		スカウト クリスマス 朝子先生宅
昭和23年 (1948)							
1. 6			○		○		目黒の厚生寮慰問
2. 21			○				1 周年記念祝会
3.29~30			○				初の全夜ハイク --- 修善寺 ~ 伊東
4. 5			○		○		クリスチャンフード工場見学
4. 10			○				4ヶ班 となる. 白ゾウ. 今田班長
5. 8			○				班長 アメリカ カブ ラリー に出席 --- 目黒アメリカンスクール
6. 12			○		○		G S 東京オ4 団発足. 正式に認められる
6. 19			○				東京スカウトラリー 常盤小学校
7. 10			○				米国連盟. 故ウエスト博士追悼式 教会
8.2~5			○				静岡合同キャンプ参加
8. 8			○				広島国際ハンボリーに8 名参加.

8.9~11	○	飯島 キャンプ
8.16~18	○	茅ヶ崎 キャンプ
8.24~28	○	ナイター奉仕 --- 神宮球場
10. 9	○	上級班長誕生、今田、3ヶ班になる。
10. 16	○	オーストラリア スカウト 来隊
11. 14	○	東京ガールスカウト ラリー --- 立教女学院
12. 24	○	スカウトクリスマス、初のケーキ カリフォルニアよりギフト
12. 25	○	教会学校 クリスマスに「ロバート王」を演ず
昭和24年 (1949)		
1. 15	○	はじめて定められた成人の日にハイキングをする --- 二子玉川
1. 24	○	映画「アメリカのスカウト」見学 --- 森村学園
2. 18	○	ワシントンハイッ、カプ"ラリー"で英語劇を演ず
2. 26	○	B.S. 2周年記念祝会
"	○	国際友好の日、日米合同の会 --- AEセンター
3. 19	○	フィンレイ氏講演会
3. 26	○	隊審査 内田二郎氏
3. 28	○	隊ハイク --- 石老山
4. 1	○	正式加盟承認
4. 4	○	日本連盟設立、(オニ次世界大戦のため中断) オノ回全国大会
5. 4	○	橋本広子氏 副リーダーとなる
5. 5		子供リクリエーション大会奉仕 --- 上野公園
6. 11		団誕生会祝会
6. 25		今井隊長送別会、大屋副長、2代目に就任
7. 1		今井隊長渡米
7. 23		東連初のパレード、スカウトナイト
8. 20		鼓笛隊初練習
8. 23		隊ハイク --- 逗子
8.25~26		スカウトバザー奉仕 --- 東横デパート
9. 3		「スマイル」発刊

9.24~25	○	○	全国大会 ---- 皇居前 (2000名参加)
11. 3	○	○	日米親善音楽会奉仕 ---- スポーツセンター
11. 5	○	○	4班となる。 ツバメ、稲瀬班長
11. 13	○	○	東連フィールドデー ---- 成城学園
11. 19	○	○	ウィリアムス氏 誕生会
12. 3	○	○	段原副長就任
12. 26	○	○	クリスマス祝会
昭和25年 (1950)			
1. 3	○	○	日の丸行進 ---- 皇居前
2. 25	○	○	国際友好の日、日米合同の会 ---- アミーホール
3. 4	○	○	おひなまつり 東京13団を招待する
3. 27	○	○	東連鬼狩り ---- 芝公園
3.28~29	○	○	全夜ハイク ---- 熱海へ箱根 20時間
4. 9	○	○	イースター 早天礼拝 ---- 皇居前
5. 27	○	○	子供の家 (恵子寮) 慰問
6. 10	○	○	団誕生会祝会
6. 17	○	○	G.S.の誕生日会、野口 子先生歓迎会 ---- 寮宿社会事業会館
6. 24	△	○	年長班、生まれる (△印登録前の仮組織)
7. 1	○	○	藤沢上級班長(2代)就任
8.7~9	○	○	キャンプ ---- 茅ヶ崎
8.9~12	○	△	隊キャンプ ---- 珂久保
8.18~20	○	△	オ2回全国大会 ---- 新宿御苑 (8000名参加)
8.29~30	△	○	自転車夜間ハイク ---- 江ノ島 (130Km)
9. 29	○	△	教会修繕、安川加寿子姉 リサイクル奉仕 ---- 日比谷公会堂
11. 18	○	△	ウィリアムス氏誕生会
11. 26	○	△	日米交歓馬術大会奉仕 ---- パレス
12. 25	○	△	クリスマス祝会

昭和26年
(1951)

1. 3	○	△	日の丸行進 --- 皇居前 ス6年度優秀隊表彰
3. 10	○	△	4周年祝会、グリフィン氏出席
3. 25	○	△	イスター 早天礼拝 --- 皇居前
4. 15	○		渡原副長隊長(3代)に就任、年長班6名副長に
5. 5	○		ガーデンパーティ奉仕 --- 新宿御苑、教会バザー奉仕
7. 26~29	○		東連夏の村 --- 西武園 6名参加
8. 4~8	○		蔵王全国大会 10名参加
8. 8~11		○	壺井沢キャンプ --- 教会サマーハウス B.S山の家
8. 15~18	○		隊キャンプ --- 石
9. 29		○	世界青年会議に日本G.S代表として出席された 国行尚子さんのお話
10. 27	○	△	○ 資金募集子供会開く
"	○		東連全夜ハイク 2名参加
11. 3	○		百隊結成記念大会 --- 日比谷公園
11. 19	○		ウィリアムス氏誕生会 チャペルセンター
12. 22	○	○	スカウトクリスマス
12. 23	○		教会学校クリスマス 「クリスマス前夜」を演ずる
12. 26		○	曳舟の興望館奉仕 (朝子先生の保育園)

昭和27年
(1952)

1. 3	○		新春パレード、銀座
1. 5	○		東連一級スカウトハイク --- 逗子
1. 5		○	日米合同ラリー、ミスクロ-歓迎会 --- 立教女学院
1. 17	○		東連鬼狩り --- 浜離宮
2. 23	○		5周年祝会
3. 1	○		遠山上級班長(3代)就任
3. 8	○		スカウト基金募集サーカス --- 旧国技館
3. 28	○		全夜ハイク --- ヤビツ峠
4. 5		○	日米ガールスカウト交歓会(講和記念) --- 光輪閣

4. 19	○	○	初の1級スカウト 生まれる 現団委員 田中(新)さん他です
5. 3	○	○	ハイキング-----奥多摩湖の楽
7.23~26	○	○	隊キャンプ-----オノ回名乗
7.30~8.9	○	○	団キャンプ-----二の宮海岸
8.1~5	○	○	東連夏の村-----京王多摩川
11. 8	○	○	文化放送出演
11. 15	○	○	立太子礼奉祝 都民大会奉仕
12. 22	○	○	スカウトクリスマス
昭和28年 (1953)			
1. 2	○	○	皇居参賀奉仕
2. 4	○	○	教会 安川加寿子姉リサイタル
2. 21	○	○	6周年祝会
3. 2	○	○	アメリカン・スクールに招待される
3. 7	○	○	ガールスカウトの集い (ミセスラッセル)----- 立教女学院
3. 19	○	○	日赤を訪れ 沖縄への贈物をとどける
3.27~28	○	○	全夜ハイク-----高尾
4. 4	○	○	国際スカウトの集い-----明治記念館
4. 18	○	○	リーダー 国行尚子となる
4. 25	○	○	カブ隊結成が決まる
6. 13	○	○	オム回団誕生会
6. 14	○	○	花の日奉仕
7. 1	○	○	渡辺上級班長(4代)就任
7. 30	○	○	団キャンプ-----軽井沢BS山の家
7.30~8.2	○	○	隊キャンプ-----オム回名乗
8. 15	○	○	文化放送出演
8.	○	○	本部スカウトキャンプ-----榛名湖 2名参加
9. 27	○	○	教会学校生徒大会奉仕-----日比谷
10. 11	○	○	ガールスカウト東京支部大会-----新宿御苑
10. 18	○	○	団ハイキング-----勝沼ブドウ狩り

11. 15			ニクソン米副大統領を羽田空港にお出迎えする
11. 29	○		隊ハイク --- 明治神宮
12. 12		○	毎日新聞社見学
12. 15	○		N T V、テレビ出演。(コーラス)
12. 26	○		クリスマス祝会
昭和29年 (1954)			
1. 2	○		皇居参加奉仕
1. 15	○		新春音楽行進
2. 20	○		7周年祝会
2. 20		○	グラントハイツの G.S に招待される
2. 21	○		D P 祭「キャンプの思い出」を上演 --- 共立講堂
3.25~26	○		全夜ハイク --- 千葉
3. 28	○		地区ラリー --- 神宮
3.30~4.2	○		2級スカウト訓練 --- 日野
3.31~4.3	○		1級特別訓練 --- 七生 石田安積参加
4. 3		○	日米交歓会 --- お茶の水女子大学
4.12~21	○	○	日赤救急法講習会
4. 13	○		救急法実演 朝日新聞社秩父高松宮妃ご出席
5. 1	○		川崎上級班長(5代)就任
5. 3		○	ハイキング --- 名栗川
5. 10	○		在日米スカウト進級式に出席 --- 新橋
5. 12	○	○	教会映画会に奉仕「雲の中の散歩」 --- 共済会館
5. 16	○		スカウト週間パレード --- 芝公園
5. 25	○		レスリング 丘界選手権大会奉仕 --- 体育館
5. 29		○	パーキング"ハイツの G.S に招待される
6. 12	○		クラブ隊結成式行われる、志水隊長
6. 13	○	○	花の日の奉仕
6. 19	○		安積、名誉スカウトになる。
6. 27	○		ラクア伝道集会奉仕

7.26~30	○	○	隊キャンプ-----茗荷指 月の輪も参加
7.25~31		○	名誉スカウトキャンプ---山中
8.9~12		○	キャンプ-----那須
10. 4		○	全国青年大会にデモンストレーション-----体育館 外務省分室の火災で荷物搬出に活躍
10. 25		○	日赤救急法、デモンストレーション-----島飾
11. 27		○	ブラウニー東京カ4団発団式、リーダー白井喜久子
12. 27	○	○	クリスマス祝会
12.29~31		○	二乗保育園奉仕
昭和30年 (1955)			
1. 7			B.S. O B会 新年会
1. 14		○	今田隊長、小地区コミ就任
1. 15	○	○	新春音楽パレード-----銀座
2. 20		○	N T V、テレビ出演
2. 26		○	と周年祝会
3.27~28		○	全夜ハイク-----豆口峠
3. 28		○	カノ回ジュリエットローセッション参加者決定 (日本代表2名の内1名) 鴻井潤子
4. 2		○	志水隊長 北海道へ就任 カ隊長(2代)杉原正となる
4. 2		○	○
4.26~5.5		○	○
4. 29		○	皇居参賀奉仕、ジョンズ博士講演会奉仕---日比谷
5. 1		○	石田(耕)上級班長(6代)就任
5. 3	○	○	隊ピクニック、ハイク-----百草園
6. 17		○	草 ^{ハヤシ} スカウト誕生 渡辺、高橋
7.15~8.14		○	ジュリエットローセッション-----スイス(島井)
7.26~29		○	本部スカウトキャンプ-----河口湖
7.28~8.1		○	富士特別訓練 4名参加
8.3~6		○	団キャンプ-----那須
8.11~13	○		東連カブ舎営-----日光

9. 15	○	飯田隊長 小地区コミ就任
11. 26	○	シースカウト隊結成 石川隊長就任
昭和31年 (1956)		
1. 2	○ ○	皇居参賀奉仕
1. 8	○ ○ ○	新春パレード ----- 銀座
2. 22	○	9周年祝会
3. 3	○	警視庁見学
3. 3	○	アメリカのブラウニーを招待する
3. 25	○ ○ ○	東連ハイク ----- 鎌倉
3. 27	○ ○	全夜ハイク
4. 7	○ ○ ○	東連キャンプファイヤ --- 神宮外苑
5. 3	○	ピクニック ---- ミツ池
5. 5	○ ○ ○	ガーデンパーティ 参加 ----- 新宿御苑
5. 19	○ ○	ミス・モード 4団の集会をご見学
5. 27	○ ○	東京支部大会 ----- ICUPickニックガランド
6. 16	○	2周年祝会
7. 7	○	アメリカンスクール のカブ隊と交歓
7. 13	○	シーリフト 高橋準一君渡米
7.26~27	○	ドイツスポーツ少年団歓迎会参加 --- 国立競技場
7.27~30	○	隊舎営 山中
8.3~7	○ ○	弟ノ国ニッポンジャンボリー ----- 軽井沢
8. 15	○	団キャンプ ----- ハケ岳 初の純キャンプ
9. 23	○ ○ ○	教会学校生徒大会奉仕 ----- 青山学院
9. 30	○ ○ ○	東京南都五百年祭前夜祭 日比谷
10. 14	○	山手地区カブラリー ----- 多摩川台公園
11. 3	○	東連カブピクニック ----- 市川国府台
11. 3	○	隊ハイク
11. 23	○	シースカウトノ周年祝会
12. 26	○ ○ ○ ○ ○	クリスマス祝会

昭和32年
(1957)

3. 9 ○ ○ ○

国連デーパレード ----- 日比谷

3.29 ~ 30 ○ ○ ○

東連大島ハイク

3. 29 ○

サマ回 ジュリエットローセッション参加者決定
(日本代表4名のうち1名) 田中富江

4. 29 ○ ○ ○ ○ ○

10周年祝会

5. 3 ○ ○ ○ ○ ○

合同バスピクニック ----- 西武園

6. 8 ○

カブ隊3周年祝会

6.21 ~ 27 ○

ジュリエットローセッション ----- アメリカへカナダ

7.29 ~ 8.10 ○

米スカウト本拠キャンプに参加

8.2 ~ 5 ○ ○

関東キャンポリー ----- 犬吠崎

8.19 ~ 22 ○

金管 ----- 小湯谷

8.25 ~ 26 ○

移動キャンプ ----- 雲取山

8 ○

サノ回全国キャンプ大会 ----- 箱根芦ノ湖

8 ○

ブラウニー舎営 ----- 初声海岸

9. 3 ○

荒垣副長 アメリカに留学

9. 30 ○ ○ ○

大東京祭前夜祭

10. 10 ○

東連バスピクニック ----- 横浜

10. 22 ○ ○

全夜ハイク

10. 25 ○

資金募集映画会「忠臣蔵」 ----- 共済会館

12. 23 ○

新制度によりサ4団となる。田中団委員長
就任

昭和33年
(1958)

1. 3 ○ ○ ○

新春パレード ----- 隅田公園

1. 4 ○

上級スカウト東京サ4団祭団式 リーダー志水興

2. 1 ○ ○ ○

育成会総会

2. 22 ○ ○ ○

11周年祝会

3. 20 ○ ○ ○

山手地区ラリー ----- 武蔵工大グラウンド

3. 29 ○ ○ ○ ○ ○

バスピクニック ----- 谷津

3. 30 ○

全夜ハイク

4. 1				○	年長班誕生
4. 3				○	初のノ級スカウト決る(三木 長瀬 原 田中(番))
4. 5			○	◎	合同築立ち式、フラワー 白井喜久子 GS.志水久 上級志水興 リーダーとなる
5. 3. 4. 5			○	○	オノ回キャンプリーダー認定講習会 6名参加
5. 4	○	○	○		カーテンパーティー...都体育館 カブ 忠臣蔵を演じる
5. 24				○	聖児園慰問
5. 24 ~ 6. 1			○	○	アジア大会奉仕 ----- 競技場
6. 7	○				団映屈会 ----- 共済会館
6. 14				○	オノ回 団誕生会
6. 22		○			4周年祝会
7. 5			○	○	郁立文京盲学校生徒慰問
7. 25			○	○	KR テレビ出演「楽しいキャンプ」
7. 26 ~ 30				○	シースカウトキャンプ ----- 茅ヶ崎
7. 28 ~ 31	○				舎営 ----- 日光清滝
8. 6 ~ 13			○	○	オノ回キリスト教教育世界大会奉仕 ----- 体育館
8. 12 ~ 18				○	年長班キャンプ ----- 阿久原
8. 14 ~ 18			○		隊キャンプ ----- 阿久原
8. 22 ~ 26			○	○	東京支部合同キャンプ ----- BS 那須夜営場
8. 27 ~ 30				○	団キャンプ ----- 佐渡 ----- 御土研究
8. 29	○			○	合同キャンプファイヤー
9. 13				○	東京支部キャンプファイヤー ----- 東泉寺
9. 20				○	太田真美枝さん送別会 11月4日 海路 ロスアンゼルスへ
10. 11				○	全夜ハイク ----- 高尾
11. 1				○	日本連盟10周年記念式典奉仕 団委員長 白井愛子姉 リーダー志水興姉表彰 される
11. 9				○	東日本ラリー ティム・スリ・ボトラー ----- 香蘭女学院
12. 6				○	郁立文京盲学校生徒を招待する
12. 20. 23. 27	○	○	○	○	スカウトクリスマス

昭和34年
(1959)

1.2~6				年長班スキー訓練 ----- 池ノ平
1. 11	○	○	○	新春パレード ----- 池袋
1. 25			○ ○	福祉施設に働く人たちの慰安会奉仕 ----- 九段会館
1.31~2.1			○	キャンプ ----- 教会
2. 7			○	毎日新聞見学
2. 7	○	○	○	スカウト週間、日米交歓会 ---- ワシントンハイッ
2. 21	○		○	12周年祝会、シスカウト新団結成、163団
2. 22			○ ○	国際友好の日、招待交歓会 -- ワシントンハイッ
4. 1		○	○	年長隊誕生 隊長 今田、少年隊長 飯田純任
4. 4			○ ○ ○	合同単立ち式 ブラウニー原崇子、GS白井喜子 上級 萬井、リーダーとなる
4. 10		○	○ ○	皇太子殿下御成婚祝賀都民大会奉仕 ---- 競技場
4. 29	○		○ ○ ○	合同バスピクニック ---- I. C. U.
5. 5	○	○	○	山手地区ラリー ----- 日体大グラウンド
5. 5			○ ○ ○	世界子供の日行進 ---- 新宿御苑
5. 16			○	GS東京8団、オノ回誕生祝会に招待さる
5.23~24			○	隊キャンプ ----- I. C. U.
5. 31			○	全夜サイクリング ----- 鎌倉
6. 13			○	オノ回誕生祝会
6. 20		○		全夜ハイク ----- 和田峠
6. 28	○			5周年祝会 ----- 教会
7. 4	○			オノ回世界ジャンボリー代表壮行会 ---- 教会
7.18~26			○	オノ回世界ジャンボリー ----- フィリッピン、マニラ 安積、小林、加藤、木下、柳 参加
7.18~26	○			舎営 ---- 箱根中強羅
7.			○	団キャンプ ----- 足尾
8.			○	ブラウニー舎営 ----- 初声海岸
8.			○	団キャンプ ----- 足尾

7月~8月			○ ○	本部キャンプ-----戸隠 10年団として表彰さる
8.6~10		○ ○		オムロ ニッポンジャンボリー----- ^{アイバノ} 櫻庭野
8.18~19		○		隊キャンプ-----教会
8.19	○		○ ○ ○	合同キャンプファイヤー-----教会
9.26		○		年長隊結成式
11.1~8		○ ○	○ ○	キリスト教宣教百年大会奉仕-----都体育館
11.3	○			ピクニック-----三溪園
11.3		○		ハイク-----鎌倉
11.21	○			資金募集映画会-----赤坂公会堂
11.28			○	5周年祝会
昭和35年 (1960)				
1.2~6			○	スキー訓練-----池ノ平
1.10		○ ○ ○		新春パレード-----錦糸公園
2.20		○ ○ ○		日米交歓会-----ワシントンハイツ
2.27	○			1周年祝会
2.29			○	ワシントンハイツに招待される
3.19	○			育成会総会
3.20~21			○	全校ハイク-----御蔵
3.27~30			○	ジャンボリー強化キャンプ-----山中 今田, 日下部 参加
3.31		○		隊ハイク-----鎌倉
4.1	○			新進歩制度による
4.2			○ ○ ○	合同築立ち式 ブラウンニ原, GS 臼井, 上級萬井,
4.5			○	飯牧師着任 奉仕
4.11~16			○	日赤救急法講習会
5.3	○		○ ○ ○	合同バスピクニック-----武蔵野郷土館
5.22			○ ○ ○	世界連盟正式加盟 加賀行進ラリー-----香蘭女学園
6.18	○			6周年祝会
7.2	○			アメリカ シュビリー ジャンボリー代表壮行会 今田, 日下部

7.22~28		○	オ5回米国ジャンボリー ----- コロラドスプリングス
7. 25		○	飯田隊長結婚式
7.26~30		○	年長富士野営
8.9~13		○	隊キャンプ ----- 山中
8.10~13		○	隊舎学 ----- 富士見高原
8.22~25		○	移動キャンプ ----- 入ヶ岳
8.7~11		○	団キャンプ ----- 初声海岸
8		○	団キャンプ ----- 柄沢山
8		○ ○	本部キャンプ ----- ヲ隠
9. 17		○ ○ ○	日米修好百年記念と、皇太子御夫妻訪米歡送日米 子供交歓会 参加、奉仕
9. 25		○ ○	教会学校生徒大会奉仕 ----- 青山学院
10. 1		○ ○ ○	合同キャンプファイヤー ----- 教会
10. 2		○ ○ ○	大東京祭ラリー ----- 本願寺
10. 8		○	婦人の友、生活展見学
10. 22		○ ○ ○ ○	団連デ- パレード
10. 23		○	小崎副団委員長 結婚式
11. 12		○	リーダー白井さん 結婚式、 根本喜久子となる
11. 17		○	荒川親隣館奉仕
11. 20		○ ○ ○	山手地区ラリー ----- 神宮内苑
12. 3		○	聖児園奉仕
12. 10		○	ブラウニー東京8団 発団式に招待される
12.17~18		○	全夜ハイク ----- 柿生
昭和36年 (1961)			
1.5~8		○	スキー訓練 ----- 石打
1. 8		○ ○ ○	新春パレード ----- 杉並
1. 22		○ ○	施設の子供たちとの交歓会
2. 25		○	14周年記念式 育成会総会、 育成会長に 飯牧師就任

3.11~17	○	○	日赤救急法講習会
3. 18		○	聖児園慰問奉仕
3. 24		.	団総会
3. 25		○	霞町福田会慰問
3.31~4.1	○	○	東連大島ハイク
4. 8		○	合同築立ち式、ブラウニー 原兼子、GS 塚田祥 上級 馬部牧子 リーダーとなる
4.17~23		○	日赤救急法講習会
5. 5		○	子供の日記念行進 ----- 神宮御苑
5. 13		○	リーダー 原さん 結婚式、... 西御兼子となる
5. 14	○	○	合同バスピクニック ----- 秋山湖
5.27~6.1		○	オムニ回ロータリー世界大会奉仕
6. 24		○	霞町 福田会慰問
7.21~24	○		隊舎営 ----- 秩父
7.29~8.2		○	隊キャンプ ----- 富崎
8.2~6		○	シニヤローバー海洋訓練 ----- 商船大学
8.9~13		○	団キャンプ ----- ハッ缶
8.		○	団キャンプ舎営 -- 山中湖
7.26~29		○	団キャンプ ----- 羽村
9. 24	○	○	教会学校生徒大会奉仕 --- 青山学院
9. 30	○	○	合同キャンプファイヤー ----- 教会
10. 7		○	今田隊長結婚式 上級スカウト副リーダー 田中、 今田 昌江となる
10.14~15		○	全夜ハイク ----- 高尾
11. 11		○	資金募集のためのフォークダンスの集い --- 教会
11. 18		○	聖児園慰問奉仕
11. 19		○	東京支部運動会 ----- 成城学園
12. 6	○		隊ハイク ----- 大山
12. 17		○	荒川親隣館慰問
12.24~28		○	スキー訓練 --- 赤倉

				青年			飯	
昭和37年 (1962)								
1. 7	○	○	○					親春パレード --- 外苑 - 渋谷
1. 28						○	○	社会福祉施設に働く人たちの慰安会奉仕
2. 24			○					15周年祝会
2. 24						○	○	国際友好の日 ワシントンハイツに招待される
3. 11								O.B. OG. 会 ---- 教会
3.19~24			○			○		日赤救急法講習会
3. 30	○	○	○	○				NET 193 田口共演 ---- 馬車公苑
3.23,24,28						○		団委員長 スケートの会
3.30~4.1							○	東京支部キャンプ ---- 伊東
4. 1				○				青年隊発足 隊長 今田
4. 2			○					隊ハイク ---- 埼玉
4. 7						○	○	合同築立ち式
"							○	飯塚レンジャー発団 リーダー 根本喜子 副リーダー 今田昌江 (12名)

今田富士雄・富江編纂